

2025

講義要目 SYLLABUS

電子技術科



令和7年4月

岩手県立産業技術短期大学校

Iwate Industrial Technology Junior College

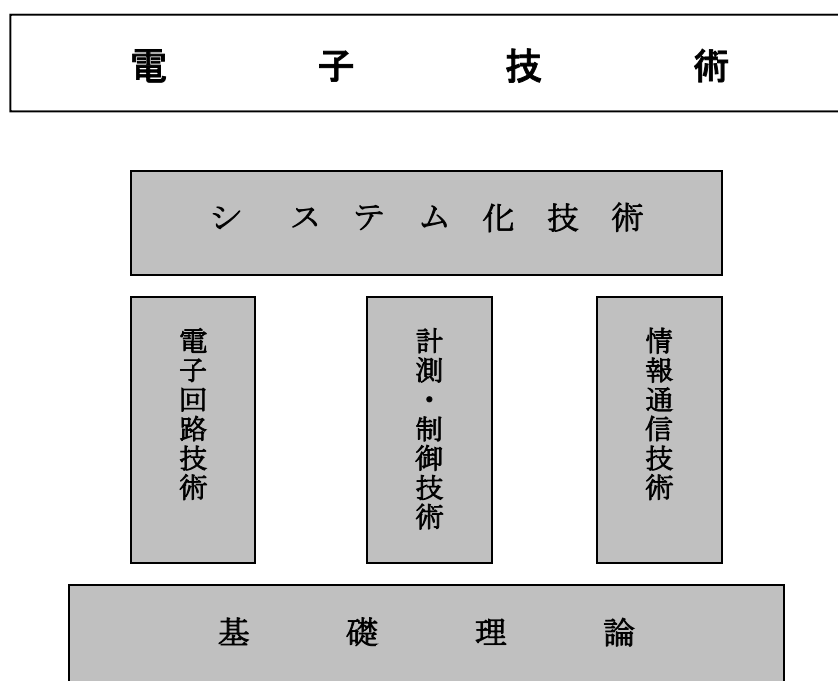
Yahaba Campus



電子技術科からのメッセージ

電子技術の分野は、原子・電子レベルの技術からスーパーコンピューターに至るまで非常に幅広く、産業の高度化の基礎技術として重要な役割を担っています。また、現在あらゆるモノがインターネットに接続される IoT (Internet of Things) 技術が注目されています。従来インターネットに接続されていなかったモノ（電子機器、車、センサー機器など）がネットワークを通してサーバーやクラウドに接続されることによって、さまざまな分野で新しいビジネスやサービスを生み出し、私たちの暮らしに“新たな価値”を創出するなど、今後ますます発展することが期待されています。

電子技術科では、IoT の実現に必要となる「電子回路技術」、「計測・制御技術」、「情報通信技術」について基礎理論から実用的な活用技術まで学びます。理論的な裏付けとともに最新の機器類を用いた実験・実習を通じてより深く理解できるカリキュラムになっています。自ら考え実験・実習に取り組むことで、創造力のある実践技術者を育成します。



電子技術科

履修科目		単位数	1年次		2年次		記載 No.	
			I 期	II 期	III 期	IV 期		
一般教育科目	職業社会論	2		2			2001	
	数学	4	4				2002	
	物理学 I	2	2				2003	
	物理学 II	2		2			2004	
	英語 I	2	2				2005	
	英語 II	2		2			2006	
	保健体育 I	2	2				2007	
	保健体育 II	2		2			2007	
	保健体育 III	2			2		2007	
	一般教育科目合計	20	10	8	2			
専門教育科目	情報工学概論	2	*) 2				2008	
	電磁気学	4		*) 4			2009	
	電気回路 I	4	*) 4				2010	
	電気回路 II	2		2			2011	
	電子工学	2	*) 2				2012	
	制御工学	6			*) 6		2013	
	生産工学	2			*) 2		2014	
	安全工学	2		*) 2			2015	
	電子計測	4			*) 4		2016	
	アナログ電子回路 I	3	*) 3				2017	
	アナログ電子回路 II	3		*) 3			2018	
	デジタル電子回路	4		*) 4			2019	
	電子デバイス	2		2			2020	
	通信工学	2				2	2021	
	コンピュータ工学 I	2		2			2022	
	コンピュータ工学 II	2			2		2023	
	総合演習	2			2		2024	
	集積回路工学	2				2	2025	
	電気工学実験 I	4	*) 4				2026	
	電気工学実験 II	2		*) 2			2027	
	自動制御実習	2			2		2028	
	電子デバイス実験	2		2			2029	
	電子機器製作実習	6	6				2030	
	ソフトウェア実習 I	4	4				2031	
	ソフトウェア実習 II	4		4			2032	
	安全衛生作業法		他の実技に包括して実施					
	アナログ電子回路実験 I	4	*) 4				2033	
	アナログ電子回路実験 II	4		4			2034	
	デジタル電子回路実験 I	4			*) 4		2035	
	デジタル電子回路実験 II	4				4	2036	
	通信工学実験	2				2	2037	
	マイコン制御及び実習 I	4			*) 4		2038	
マイコン制御及び実習 II	4				4	2039		
総合製作実習	5			5		2040		
電子製図実習	4			4		2041		
シーケンス制御実習	4				4	2042		
卒業研究 I	2			*) 2		2043		
卒業研究 II	21				*) 21	2044		
専門教育科目合計	136	29	31	37	39			
合計 () 内 : 必取得単位数	156	39	39	39	39	(77)		

注 : *) 記号は、必取得単位科目を示す。

年度	2025	科目番号	2001
科目名	職業社会論	科目種別	一般
科目名：英語	Occupational Sociology	所属	電子技術科
担当教員名	金野 馨／高橋 真澄		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<p>(1) 職業人として必要な知識と基本的素養を習得する。就職活動に必要な知識とスキルを習得する。特に、産業社会と働き方の大きな変化を知り、就職活動の参考にすることを旨とする。</p> <p>(2) 他者とのかかわりあいが必要な実社会に必要なコミュニケーション能力の向上と自分の考えを表現する力を身につけることを目標とする。ビジネスシーンに必要な敬語や電話応対をはじめ、プレゼンテーションなどで役立つスキルを習得する。加えて、就職試験の面接時にしっかり受け答えができることを旨とする。</p> <p>(3) (1)(2)の内容を踏まえ、それぞれのニーズにあった企業とのマッチングの実現に向け、就職活動に必要な実践力を身につける。</p>		
授業の概要	<p>(1) 職業人としての心構えと、就労と就職活動に必要な知識とスキルについて学ぶ。</p> <p>(2) 「好感度を上げる方法」「正しい話しことば」「正しく聴く力」「分かりやすい表現方法」他、実社会で必須の「電話応対法とマナー」などを、テキスト及び実技を通して身につける。更に、自己肯定感を持ち、社会で求められる精神的強さを獲得する。</p> <p>(3) 就活力を高めるために、就職支援セミナーなどを行う。</p>		
キーワード	「働き方」の多様化、AI 産業革命、就職活動、SDGs、DX、コミュニケーション能力、敬語、電話応対、対話法、自己PR、マナー		
授業計画	<p>第 1 回 新視点で仕事や働き方の全体像を把握 ◎ 大きく変化する産業社会の実態を捉えること ① 仕事内容の変容と新しい働き方の現状を把握 ② 新産業社会の中での仕事と自らの適性を見極め方</p> <p>第 2 回 新卒就活のポイントと働くために必要なこと ◎ 新卒就職を成功させるためのポイントを捉えること ① 新しい仕事・企業選択、応募書類作成、面接試験対応のポイント ② 仕事遂行・継続のために身につけなければならないこと</p> <p>第 3 回 今後のあなたのキャリア形成に向けて ◎ 将来まで含め、自らの仕事生活設計を構想できる資質を養う ① 目標の立て方、企業生活（対人関係構築など）のあり方を学ぶ ② これからの産業社会のあり方及び方向性の把握</p> <p>第 4 回 コミュニケーションマナーの基本（話す・聞く）と挨拶 印象の良い姿勢と態度</p> <p>第 5 回 挨拶と自己紹介 リクルートスーツ姿の身だしなみチェック</p> <p>第 6 回 きれいな発声と発音 自分の話し方を見直す</p> <p>第 7 回 敬語の基本とシチュエーション別使い方</p> <p>第 8 回 話すときの心構えと準備（プレゼンにも対応）</p> <p>第 9 回 効果的に話す 電話応対</p> <p>第 10 回 面接の心構えとポイント コミュニケーションマナー習得試験</p> <p>第 11～20 回 就職ガイダンス；就職活動の仕方と心構え 企業研究（説明会等）・職業講話；職業理解とキャリア形成 就職セミナー；自己分析と自己表現方法、求人票の見方等 書類準備・試験対策等</p>		
教科書、教材等	(1) (3)オリジナル教材(2) (株)ウイネット発行「コミュニケーション技法」		
授業の形式	(1)講義(2)テキストに沿った講義、発言やプリント等によって演習を行う(3)講話及び個別指導		
成績評価の方法	課題演習、課題テスト、主体的な授業参加度等で評価する。		
履修の留意点	(1)は金野講師（第1回～第3回）、(2)は高橋講師（第4回～第10回）、(3)は科就職担当（第11回～20回）が担当。回は前後する場合がある。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2002
科目名	数学	科目種別	一般
科目名：英語	Mathematics	所属	電子技術科
担当教員名	恒川 佳隆		
開講学期／単位数	I 期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	<p>本授業では、専門教育を学ぶための数学の基礎を身に付けることを目的としている。到達目標は以下の通りである。(1) 1 変数関数に関して、微分・積分の意味を理解し、基本的な初等関数の微分・積分の計算ができる。また、それらを応用して関数の増減や図形の面積、立体の体積などが求められる。(2) 2 変数関数に関しても、微分・積分の考え方を理解し、偏微分や重積分が計算できる。(3) 簡単な常微分方程式が解ける。(4) ラプラス変換の基礎を身に付け、簡単な電気回路の過渡現象や力学の問題が解ける。(5) 専門分野で必要となる複素数を理解できる（オイラーの公式の利用を含めて）。</p>		
授業の概要	<p>本授業では、主に 1 変数および 2 変数関数の微分・積分を学習する。高校で数学Ⅲを履修していないか、あるいは履修していても十分でない学生に対しても、基礎事項から積み上げ、専門科目を理解する上で必要な基礎的計算力・理解力が得られるよう工夫する。そのため、なるべく抽象的な説明は避け、具体的問題を通して、理論的な内容を理解させる。そして講義の中で類似の演習問題を数多く解かせ、各自に見合った計算力を高める。また、随時小テストを行い、理解度をチェックする。さらに、中間試験、期末試験を実施して総合力を計る。</p>		
キーワード	基本関数、関数の極限、微分積分、微分方程式、複素数、ラプラス変換		
授業計画	<p>第 1～2 回 関数の極限、連続関数 第 3～6 回 基本関数とその性質 (三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数、双曲線関数など) 第 7～8 回 微分と導関数、微分の公式、合成関数の微分 第 9～12 回 初等関数の導関数 三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの微分 第 13～16 回 微分の応用 不定形の極限值、テイラー展開、マクローリン展開、関数の増減と概形 第 17～19 回 複素数（オイラーの公式の利用を含めて） 第 20 回 中間試験 第 21～25 回 不定積分 不定積分の公式、置換積分、部分積分、有理関数・無理関数の積分 第 26～28 回 定積分とその応用 面積、立体の体積、曲線の長さ 第 29～31 回 2 変数関数の微分とその応用 偏微分、全微分と平面、合成関数の微分 第 32～34 回 2 変数関数の積分とその応用 重積分、累次積分、極座標の変数変換、立体の体積 第 35 回 微分方程式 第 36～38 回 ラプラス変換による常微分方程式の解法と応用 第 39 回 期末試験 第 40 回 答案返却と総復習</p>		
教科書、教材等	石村園子：やさしく学べる微分積分、共立出版。また、独自の資料・演習書を配布する。		
授業の形式	講義と演習、小テストを随時行う。		
成績評価の方法	中間試験、期末試験、小テスト、レポートを総合的に評価する。		
履修の留意点	数学は問題を自分で解かないと身に付かない。演習および小テストを積極的に取り組むこと。また、分からない事項は質問すること。		
参考・推薦図書等	金原繁ほか：理工系の基礎数学、実教出版 矢野健太郎ほか：微分積分（改訂版）、裳華房		

年度	2025	科目番号	2003
科目名	物理学 I	科目種別	一般
科目名：英語	Physics I	所属	電子技術科
担当教員名	廣瀬 宏一		
開講学期／単位数	I 期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	一般教養として、また一部は専門教科を学ぶために必要な物理の基礎を身につける。主として力学を据え、熱とエネルギー、波と光など、広範囲の物理を学ぶ。可能な限り専門課程を意識して力学の知識の取得を主とするが、基礎的な物理全般についての理解を深める。		
授業の概要	<p>主として力学を据え、基本的には力を受けることによって運動に変化が起こること、また、この変化は数学を用いて関数として表現できることなどを示す。</p> <p>講義の冒頭、この講義を進めるに当たって不可欠な物理学の単位と数学の基礎とに触れる。その後、力と運動の関係を具体的な現象を通して概説する。力学的エネルギー保存則や運動量保存則を通して、物理量の保存法則という考え方を概説する。</p> <p>さらに生活に必要な保温性や快適性に関して熱的問題を概説する。周期運動と波動については基礎的な物理との関連性において、簡単に概説する。講義のなかで演習を随時行うとともに授業の進行によって、最新の研究的な取り組みの紹介などを行う場合がある。</p>		
キーワード	力と運動、ニュートン力学、熱と温度、周期運動と波動		
授業計画	<p>第 1 回 <0. はじめに> 0.1~0.3 物理量と国際単位系 0.4 から 0.5 数量換算と有効数字</p> <p>第 2 回 0.6 次元および基礎となる演算法と関数</p> <p>第 3 回 <1. 運動> 1.1~1.3 速さと等速直線運動</p> <p>第 4 回 <1. 運動> 1.5~1.6 等加速度直線運動と運動のグラフ化</p> <p>第 5 回 <2. 力と運動> 2.5 力の合成と分解およびベクトル演算)</p> <p>第 6 回 2.1 ニュートンの運動の法則</p> <p>第 7 回 2.2~2.3 運動量と力積、直線運動での運動の法則</p> <p>第 8 回 2.6~2.7 運動方程式の解き方の例と摩擦力</p> <p>第 9 回 2.8 力のつり合い (剛体と力のモーメント)</p> <p>第 10 回 <3. 仕事とエネルギー> 3.1~3.4 仕事と運動エネルギー</p> <p>第 11 回 3.5 力学的エネルギーの保存則</p> <p>第 12 回 授業内容の理解度確認試験</p> <p>第 13 回 <5. 連続体の力学 1></p> <p>第 14 回 <5. 連続体の力学 2></p> <p>第 15 回 <7. 熱と温度 1></p> <p>第 16 回 <7. 熱と温度 2></p> <p>第 17 回 <4. 周期運動></p> <p>第 18 回 期末試験</p> <p>第 19 回 期末試験の解答と補足</p> <p>第 20 回 <6. 波動></p>		
教科書、教材等	物理学入門 (第 3 版) (原 康夫 著 学術図書出版社) ISBN978-4-7806-0500-6		
授業の形式	板書や PPT などを用いた講義、演習を行う。資料を配布する場合もある。		
成績評価の方法	理解度確認試験・期末試験の成績および講義への積極的な取り組みなどで評価する。		
履修の留意点	板書・口述事項など各自工夫してメモすること。予習、復習を基本とする。演習などに備え、計算用の電卓を持参すること。授業の際に高校の時に履修した物理学の教科書を持参することが望ましい。		
参考・推薦図書等	<p>下村 裕 著 共立出版「力学」ISBN978-4-32.0-03641.-3</p> <p>基礎物理 (第 4 版) (山田泰一・伊藤悦朗・北村美一郎・杉本徹 著 東京教学社) ISBN978-4-8082-2088-4</p> <p>図解 もの創りのためのやさしい機械工学 (改訂第 3 版) (門田和雄 著) 技術評論社 ISBN978-4-2.97-1.1.962.-1. C3053</p> <p>和田 純夫 監修 Newton 別冊 「学びなおし 中学・高校物理」 ISBN978-4-31.5-52.365-2.</p>		

年度	2025	科目番号	2004
科目名	物理学Ⅱ	科目種別	一般
科目名：英語	PhysicsⅡ	所属	電子技術科
担当教員名	高橋 克幸／阿部 貴美		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	技術者として必要になる物理学の電気と磁気および電磁気学分野の基礎知識と基本的な法則を学び、レポート課題等による演習を通して理解を深めるとともに知識を確実なものにし、関連する分野への適応力・応用力を養うことを目標とする。		
授業の概要	最初に摩擦電気、電荷による静電場、電荷間に作用する力、帯電導体の内部および外部の静電場、誘電体中の静電場、導体を流れる電流と起電力の関係について講義する。次いで磁石と磁場、電流によって生ずる磁場、磁場中の電流に作用する磁気力、そしてその応用機器であるモーターの原理、電磁誘導の法則およびその応用電気機器である発電機と変圧器の原理について講義する。その後、電磁波について、電磁波は電場と磁場からなる横波であること、電磁波の分類と呼称、媒質定数と速度および波動インピーダンスの関係、電磁波のエネルギー等について講義する。		
キーワード	電荷、電流、磁気力、電磁誘導、電磁波		
授業計画	第 1 回 電気磁気学歴史概観 第 2～3回 摩擦電気、電荷保存の法則、電気力のクーロンの法則、ガウスの法則 第 4～6回 静電誘導、電位、導体中の電場と電位、静電遮蔽、静電容量、誘電体、分極 キャパシターに蓄えられるエネルギー 第 7～8回 電流、起電力、オームの法則、電気抵抗率、超伝導 第 9 回 中間試験 第 10回 中間試験と前半の解説 第 11回 磁石と磁場、磁荷、磁気力のクーロンの法則、磁性体、地球の磁場 第 12～14回 電流の磁気作用、ビオ・サバールの法則、アンペールの法則 磁場中の運動する荷電粒子および電流に作用する磁気力、モーターの原理 第 15～16回 電磁誘導、発電機の原理、変圧器の原理、インダクタンス、 インダクタンスに蓄えられるエネルギー 第 17～18回 電磁波、電磁波の分類と呼称、電磁波の速度、波動インピーダンス、 電磁波のエネルギー、反射と回折 第 19回 期末試験 第 20回 期末試験の解答、解説		
教科書、教材等	第3版 物理学入門 Web 動画付（原康夫著 学術図書出版社）		
授業の形式	教科書に準じて講義形式で授業を進める。教科書に記載されていなくても重要と思われる事項は補足プリントを配布して説明を加える。授業内容の理解を深めることを目的として随時課題を出してレポートの提出を課す。		
成績評価の方法	試験の結果、レポートの提出状況等により評価する。		
履修の留意点	物理学の電磁気学分野を学ぶ教科である。電磁気学は電気電子工学の重要な基礎学問の一つであることに留意して、専門教科と関連付けて学習することが重要である。技術者には物理現象の定性的な理解のみならず、定量的な理解が大事であり、そのためには数学の知識が特に有用である。授業中に使う数学をおろそかにせず、併せて習得するよう心掛けて欲しい。疑問点はそのままにしておかず、その都度質問すること。		
参考・推薦図書等	第5版 基礎物理学（原康夫著、学術図書出版社） 改訂新版 基礎教養 物理学（大槻義彦著、学術図書出版社）		

年度	2025	科目番号	2005
科目名	英語 I	科目種別	一般
科目名：英語	English I	所属	電子技術科
担当教員名	ハリス・アンドリュウ		
開講学期／単位数	I 期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場で実践的な英語の使用 ・ 計量、寸法、仕様などを含む技術英語の理解 ・ 既存の英語で、新しい環境で使用 ・ 生徒同士、また講師とも、互いに英語で会話 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを学びます。 ・ 教科書と追加のワークシートを使用しライティング練習 ・ ペアワークとミニプレゼンテーションで話す練習 ・ 毎週宿題の提出 ・ 授業は、ビデオ、e ラーニングアクティビティ「Quizlet」、及びゲーム 		
キーワード	説明、職場のコミュニケーション、描写、寸法		
授業計画	<p>第 1-2 回: Unit 1 初めて会う、名前と連絡先の詳細、番号、日付と時刻会議、レポート1 (自己紹介のスピーチ)</p> <p>第 3-5 回: Unit 2 部品の名前の説明、指示を与える、ニーズを述べる、商品を注文する、電話と電子メールによるコミュニケーション、レポート 2 (E-mail の書き方)、小テスト</p> <p>第 6-8 回: Unit 3 特徴と機能の説明、場所の説明</p> <p>第 9-12 回: Unit 4 動きと方向、能力、指示や命令を与える、場所の説明、レポート 3 (近所についてのスピーチ)、中間テスト</p> <p>第 13-15 回: Unit 6 現在の動作の記述 (現在進行形)、材料とその特性、商品を注文する</p> <p>第 16-17 回: 特別なトピック (時間があれば)</p> <p>第 18 回: 復習と試験準備</p> <p>第 19-20 回: 試験、解説</p> <p>* 2-3 週間おきに、読解練習 * 毎回異なる話題で英会話練習</p>		
教科書、教材等	<p>Technical English, Level 1 Coursebook, 2nd edition (David Bonamy, Pearson ISBN9781292424460)</p> <p>Technical English, Level 1 Workbook, 2nd edition (David Bonamy, Pearson ISBN9781292424507)</p>		
授業の形式	教科書または各科提供教材に準じて講義を進め、会話練習をペアワークで行う。		
成績評価の方法	小テスト、宿題、試験、レポート、スピーチ		
履修の留意点	授業以外でも積極的に復習すること。宿題をすること。英語で話してみる。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2006
科目名	英語Ⅱ	科目種別	一般
科目名：英語	EnglishⅡ	所属	電子技術科
担当教員名	ハリス・アンドリュウ		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場での実践的な英語の使用 ・ 計量、寸法、仕様などを含む技術英語の理解 ・ 既存の英語で、新しい環境での使用 ・ 生徒同士、また講師とも、互いに英語で会話 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを学びます。 ・ 教科書と追加のワークシートを使用しライティング練習 ・ ペア・グループワークとミニプレゼンテーションで話す練習 ・ 毎週宿題の提出 ・ 授業は、ビデオ、eラーニングアクティビティ「Quizlet」、及びゲーム 		
キーワード	説明、職場のコミュニケーション、描写、寸法		
授業計画	<p>第 1-4 回：Unit 7 仕様、数量、寸法、計画・予定、時間表現、数式・分数、</p> <p>第 5-7 回：Unit 8 過去の出来事の報告（現在完了形と単純過去形）、時間表現（日付） 小テスト</p> <p>第 8-11 回：Unit 10 ルール、注意事項、安全、事故の報告（過去の出来事、レポート 1 （スピーチ：私の将来について）、中間テスト</p> <p>第 12-16 回：Unit 12 仕様、情報の確認、概算、指示、進行状況の確認（現在完了形）、レ ポート 2（スピーチ：興味がある人工物）</p> <p>第 17 回：特別なトピック（時間が許せば）</p> <p>第 18 回：復習と試験準備</p> <p>第 19-20 回：試験、解説</p> <p>＊2-3 週間おきに、読解練習 ＊毎回異なる話題で英会話練習</p>		
教科書、教材等	<p>Technical English, Level 1 Coursebook, 2nd edition (David Bonamy, Pearson ISBN9781292424460)</p> <p>Technical English, Level 1 Workbook, 2nd edition (David Bonamy, Pearson ISBN9781292424507)</p>		
授業の形式	教科書または各科提供教材に準じて講義を進め、会話練習をペアワークで行う。		
成績評価の方法	小テスト、宿題、試験、レポート、スピーチ		
履修の留意点	授業以外でも積極的に復習すること。宿題をすること。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2007
科目名	保健体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	科目種別	一般
科目名：英語	Health and Physical EducationⅠ・Ⅱ・Ⅲ	所属	電子技術科
担当教員名	畠山 健		
開講学期／単位数	Ⅰ期／2単位（20回）・Ⅱ期／2単位（20回）・Ⅲ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かなスポーツライフを実現するために、課題を発見し合理的、計画的に導いていく。 ・自己や仲間と課題に取り組みながらコミュニケーションスキルを身につける。 ・毎日検温を実施し健康管理に努め、体の状態や情報を集め社会生活に取り入れていく。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策ため手洗い、換気、大声、密対策を意識して授業に取り組むこと。 ・技能レベルも異なるため均等なチーム分けになるよう編成する。 ・意欲的、自主的な態度で積極的に取り組むことが望ましい。 ・基本的な技能を身につけ仲間と連携してゲームが展開できるようにする。 ・序盤からゲーム制を取り入れ、互いに協力し合理的、計画的に課題解決を図っていく。 ・ルールについては、全員が楽しむために簡易的にしたり、接触プレーを避けたりする時がある。フェアプレー精神を忘れずに励むこと。その都度ルールを変更する。 ・探究心を養うためにスポーツ科学やスポーツ文化に対する関心を高めること。 ・期末には保健の授業を行い、健康課題の把握、解決方法の習得を目指し、将来に向けたヘルスプランの構築を図る。 		
キーワード	体づくり、ストレッチ、バランス、レディポジション、コミュニケーションスキル、安全の確保、現代社会と健康、救急処置など		
授業計画	<p>[保健体育Ⅰ]</p> <p>第 1 回：オリエンテーションと体ほぐし運動</p> <p>第 2～16 回：①ネット型スポーツ「バレーボール」「卓球」「バドミントン」「テニス」 ②ゴール型スポーツ「バスケットボール」「サッカー（フットサル）」「ハンドボール」 ③ベースボール型スポーツ「野球」「ソフトボール」「フットベース」 ④ダンス（アイソレーション、ステップ、リズム運動） ⑤ニュースポーツ（ドッチビー、ジャグリングなど）</p> <p>上記の④・⑤などを活用して体ほぐし運動を実施する。 ①・②・③型の球技スポーツを中心に授業を展開し課題に取り組む。</p> <p>第 17 回：実技テスト</p> <p>第 18・19 回：講義（保健）</p> <p>第 20 回：筆記テスト（保健）</p> <p>[保健体育Ⅱ] 保健体育Ⅰと同様</p> <p>[保健体育Ⅲ] 保健体育Ⅰと同様</p>		
教科書、教材等	自作プリント、WEB を活用		
授業の形式	対面形式での実技および講義		
成績評価の方法	主体的な授業の参加度、意欲的・自主的な態度、課題の解決状況、実技テストや筆記試験及びレポート等で評価をする。		
履修の留意点	受講前後の手洗いの徹底する。換気の徹底。自己の体力の程度に応じる運動をする。安全を確保し怪我を未然に防ぐ。体調管理に十分気をつける。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2008
科目名	情報工学概論	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Introduction to Computer Engineering	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期／単位数	I期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<p>高度情報化社会の進展を背景に、電気技術分野を含むあらゆる分野で情報化の進展がみられる。この授業で以下のような能力を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解する。 ・コンピュータを有益な情報収集・伝達のツールとして使いこなす。 ・ネットワークを正しく利用でき、他人に迷惑をかけたり、犯罪被害に巻き込まれない。 		
授業の概要	あらゆる産業で利用されているコンピュータの基礎技術について、講義と演習を中心に学ぶ。		
キーワード	情報の形態、インターネットの仕組み、Webシステム、情報の伝達、データ化と分析、モデリング、セキュリティ、法令順守、ICT		
授業計画	<p>第1回 コンピュータのしくみ</p> <p>第2回 コンピュータでの情報の表し方</p> <p>第3回 周辺機器とインタフェース</p> <p>第4回 ソフトウェア</p> <p>第5回 情報システム</p> <p>第6回 ネットワーク機能と仕組み</p> <p>第7回 情報の形態</p> <p>第8回 情報の蓄積の形態</p> <p>第9回 情報収集</p> <p>第10回 インターネットの概要、通信機能の階層化、IPアドレス、パケット通信、通信の経路</p> <p>第11回 データを送る仕組み、アプリケーション層のプロトコル、直接接続する機器通信、Webアプリケーションの仕組み、クラウドコンピューティング</p> <p>第12回 ソーシャルネットワークサービス（SNS）、ブログ</p> <p>第13回 電子掲示板、電子メール、ソーシャルメディア、電子書籍</p> <p>第14回 情報とデータ、データの整理、分析ツール</p> <p>第15回 関数</p> <p>第16回 演習</p> <p>第17回 データの可視化</p> <p>第18回 データマイニング、テキストマイニング</p> <p>第19回 期末試験</p> <p>第20回 まとめ</p>		
教科書、教材等	「よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修（技術評論社）、自作プリント等。		
授業の形式	教科書に準じて講義を中心に進め、ときおり演習を交えて授業を行う。		
成績評価の方法	試験、小テスト、授業への参加度（積極性）などで評価する。		
履修の留意点	すべてのコンピュータ関連教科と関連付けて学習すること。		
参考・推薦図書等	痛快！コンピュータ学（集英社）		

年度	2025	科目番号	2009
科目名	電磁気学	科目種別	専門 (必取得)
科目名: 英語	Electromagnetic Theory	所属	電子技術科
担当教員名	三浦 幸喜		
開講学期/単位数	Ⅱ期 / 4単位 (40回)		
授業の到達目標	<p>電界・磁界等の電磁現象に関する理論を習得し、電気・電子工学を履修するために必要な基本的能力を養うことを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気現象の物理的な意義や原理が理解できる ・ 電気全般の成立ちの基礎を知ること、より本質的な知識を身に付けることができる 		
授業の概要	電荷の概念を認識し、電界・磁界の現象を学ぶ。		
キーワード	素電荷、クーロンの法則、ガウスの法則、電界、磁界		
授業計画	<p>第1回 電磁気学の概要</p> <p>第2回 帯電と電荷</p> <p>第3回 クーロンの法則</p> <p>第4回 電界と電気力線</p> <p>第5回 電位差と電位</p> <p>第6回 等電位面と電位の傾き</p> <p>第7～9回 ガウスの法則</p> <p>第10回 静電しゃへい</p> <p>第11回 電気双極子 電気二重層 電気影像法</p> <p>第12回 演習</p> <p>第13回 静電容量 各種導体間の静電容量</p> <p>第14～15回 誘電体の分極</p> <p>第16～17回 誘電体中のガウスの法則</p> <p>第18回 誘電体境界面での境界条件</p> <p>第19～20回 誘電体中に蓄えられるエネルギーと力</p> <p>第21回 小試験</p> <p>第22回 磁界 磁力線 右ねじの法則</p> <p>第23回 ビオ・サバールの法則</p> <p>第24～25回 アンペアの周回積分の法則</p> <p>第26回 電磁力</p> <p>第27回 磁性体</p> <p>第28～29回 磁気回路</p> <p>第30回 磁化曲線</p> <p>第31～32回 電磁誘導</p> <p>第33～35回 インダクタンス</p> <p>第36回 試験</p> <p>第37～39回 電磁波</p> <p>第40回 まとめ</p>		
教科書、教材等	「電気磁気学」安達三郎・大貫繁雄共著 (森北出版)、自作演習プリント		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、プリント等によって関連分野の説明や演習等を行う。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、演習課題 (に対する着眼点・考察) などで評価する。		
履修の留意点	数学、物理学が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2010
科目名	電気回路 I	科目種別	専門 (必取得)
科目名 : 英語	Electric Circuits I	所属	電子技術科
担当教員名	継枝 正行		
開講学期/単位数	I 期/4 単位 (40 回)		
授業の到達目標	電気回路を構成する基本的な素子の性質や回路動作を理解するための理論、諸定理などの基礎知識が習得できる。		
授業の概要	<p>電気回路は「直流回路」と「交流回路」に大きく分けられる。</p> <p>「直流回路」では、オームの法則を元に基本的な電気回路の考え方と回路中の電圧や電流、電力などの物理量の計算方法を学ぶ。</p> <p>「交流回路」では、正弦波交流の基礎と複素数およびベクトルによる表現を用いて、素子単体（抵抗、コイル、コンデンサ）の動作と組み合わせた場合の回路動作、諸現象について定量的に学ぶ。</p>		
キーワード	電流、電圧、オームの法則、キルヒホッフの法則、直列回路、並列回路、交流回路、複素数、インピーダンス、電力、電力量、力率		
授業計画	<p>第 1 回 導入、概要説明</p> <p>第 2～3 回 電流と電圧</p> <p>第 4 回 オームの法則</p> <p>第 5 回 直列接続、電圧降下、分圧</p> <p>第 6 回 抵抗の並列接続</p> <p>第 7 回 直流電力と電力量</p> <p>第 8 回 ジュールの法則、抵抗の変化</p> <p>第 9～11 回 直流回路の解き方</p> <p>第 12 回 回路の定理</p> <p>第 13 回 Y-Δ変換</p> <p>第 14～16 回 第 1 回まとめ小テスト</p> <p>第 17～18 回 正弦波交流</p> <p>第 19 回 交流回路の解き方</p> <p>第 20 回 R L 直列回路、R C 直列回路</p> <p>第 21 回 複素数</p> <p>第 22 回 記号法（フェーザ表示、複素数表示）</p> <p>第 23 回 インピーダンス</p> <p>第 24 回 インピーダンスの直列接続、並列接続</p> <p>第 25～28 回 交流回路の計算</p> <p>第 29～30 回 第 2 回まとめ小テスト</p> <p>第 31～33 回 交流電力と力率</p> <p>第 34～35 回 共振回路</p> <p>第 36 回 ベクトル軌跡</p> <p>第 37～39 回 演習、期末試験等</p> <p>第 40 回 まとめ</p>		
教科書、教材等	「テキストブック電気回路」本田徳正（オーム社）、自作演習プリント		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、プリント資料により演習を行う。 また、習熟度を確保するため、単元ごとに小テストを実施する。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、授業への参加度（積極性）および演習課題の取組状況などを総合的に評価する。		
履修の留意点	数学、アナログ電子回路 I 等と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2011
科目名	電気回路Ⅱ	科目種別	専門
科目名：英語	Electric Circuits II	所属	電子技術科
担当教員名	有原 一文		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	電気系モデルで実際に生じる様々な現象を理解するうえで必要となる数学的な解析手法を、過渡現象を例に習得することができる。		
授業の概要	はじめに電気系モデルを題材に微分方程式の組立て演習を行う。次に微分方程式解法について学習する。その後、具体的な電気回路（R-L回路、R-C回路およびR-L-C回路）における過渡現象を数学的に解き、過渡現象の論理的解析能力を養う。		
キーワード	過渡現象、定常解、過渡解、微分演算子、定数係数微分方程式、RL回路、RC回路、時定数		
授業計画	第 1回 授業概要説明 第 2回 微分方程式の組立て演習 第 3回 定数係数線形微分方程式と定数係数線形同時微分方程式 第 4回 微分演算子の性質(指数代入、指数通過) 第 5回 微分演算子と逆演算子 第 6回 微分方程式 $f(D)y=F(x)$ の一般解(過渡解)の求め方 第 7回 微分方程式 $f(D)y=F(x)$ の特殊解(定常解)の求め方 第 8回 R-L回路における過渡現象(解説) 第 9回 R-L回路における過渡現象(解説、演習) 第 10回 R-C回路における過渡現象(解説) 第 11回 R-C回路における過渡現象(解説、演習) 第 12回 R-L-C回路における過渡現象(解説) 第 13回 R-L-C回路における過渡現象(解説、演習) 第 14回 小テスト 第 15回 小テスト解説 第 16回 総合演習 第 17回 期末試験 第 18回 試験解説 第 19回 ラプラス変換 第 20回 ラプラス変換		
教科書、教材等	「理工系のための数学入門 微分方程式・ラプラス変換・フーリエ解析」 一色 秀夫・塩川 高雄 著(オーム社)、自作プリント		
授業の形式	教科書及び自作プリントにより講義を進める。 また、單元ごとに演習および小テストを実施する。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、授業への参加度(積極性)および演習課題の取組状況などを総合的に評価する。		
履修の留意点	一般教育科目の「数学」により、各種関数およびその微積分について理解しておくこと。 電気回路Ⅰと関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2012
科目名	電子工学	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Electronics	所属	電子技術科
担当教員名	三浦 幸喜		
開講学期／単位数	I期／2単位（20回）		
授業の到達目標	電子技術に使用される電子素子や電子機器の動作の基本となる物理現象の基礎知識を学び、専門科目を学ぶための基礎知識を習得できる。		
授業の概要	原子と電子の仕組みと電子技術に必要な基本的な現象について理解し、さらに電流や電圧などの電子技術に関する基本的な概念について学ぶ。		
キーワード	半導体、ダイオード、トランジスタ、FET、IC		
授業計画	第1回 電子技術の概要（基本技術と応用分野） 第2回 電圧、電流、抵抗と抵抗率、オームの法則 第3回 半導体（半導体と原子） 第4回 電子の諸現象（電子放出、放電現象、絶縁破壊） 第5回 半導体（自由電子と正孔の働き） 第6回 半導体（半導体の種類） 第7回 半導体（キャリアのふるまい） 第8回 半導体（pn接合） 第9回 ダイオード（pn接合ダイオード） 第10回 ダイオード（ダイオードの利用） 第11回 ダイオード（その他のダイオード） 第12回 トランジスタ（トランジスタの基本構造） 第13回 トランジスタ（トランジスタの基本動作） 第14回 トランジスタ（トランジスタの静特性） 第15回 FET（接合形FET） 第16回 FET（MOSFET） 第17回 サイリスタ、フォトトランジスタ、その他の半導体素子 第18回 集積回路（IC）の製造と分類 第19回 集積回路の特徴と分類 第20回 期末試験		
教科書、教材等	「電子回路概論」高木茂孝・鈴木憲次（実教出版）、「トコトンやさしい電子部品の本」（日刊工業新聞社）、自作プリントなど		
授業の形式	プリント資料により関連分野の補足説明を行う。		
成績評価の方法	期末試験、授業への参加度および受講状況（演習レポート提出等）などで評価する。		
履修の留意点	電子デバイスなどの教科と関連付けて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2013
科目名	制御工学	科目種別	専門 (必取得)
科目名：英語	Control Engineering	所属	電子技術科
担当教員名	有原 一文		
開講学期／単位数	Ⅲ期／6 単位 (60 回)		
授業の到達目標	<p>古典制御理論について学習し、制御系における基本的な解析や設計能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムをモデル化し、伝達関数で表すことができること ・基本形の制御系の時間応答について理解していること ・フィードバック制御系の PID 制御について理解していること ・周波数応答・安定性について理論的に考察できること 		
授業の概要	<p>「制御の概要」では、制御工学が利用されている例を述べ、制御の考え方を学ぶ。また、様々な制御方法やそのモデル化についても理解する。</p> <p>「ラプラス変換」では、システムの伝達関数を数学的に扱う手法の1つであるラプラス変換について学び、制御系の数学的な取り扱い方を理解する。</p> <p>「制御系の時間応答」では、1次遅れ系・2次遅れ系の時間応答、フィードバック制御系と PID 制御による制御方法について学ぶ。</p> <p>「周波数伝達関数」では、制御系の周波数特性について学ぶ。</p> <p>「周波数応答による解析」では、フィードバック制御系の設計や性能評価に用いる手法について紹介する。</p> <p>「制御システムの安定性」では、制御システムの安定性の概念を理解し、システムの安定判別法や不安定なシステムを安定化する方法を理解する。</p>		
キーワード	制御システム、ラプラス変換、フィードバック制御、インパルス応答、インディシャル応答、周波数応答、ボード線図、ナイキスト線図		
授業計画	<p>第 1 回 制御工学の概要 制御とは、ON・OFF 制御、フィードバック制御、シーケンス制御など、制御系の構成</p> <p>第 2～4 回 制御系のモデル化 プロセス系や機械系、電気系の振る舞いの数学モデル</p> <p>第 5～19 回 ラプラス変換と逆変換 定義、基本的な関数のラプラス変換の導出、逆ラプラス変換、ラプラス変換の諸定理</p> <p>第 20 回 中間試験</p> <p>第 21～25 回 ブロック線図によるモデル化 ブロック線図の描き方、ブロック線図の等価変換、ブロック線図と伝達関数</p> <p>第 26～39 回 制御系の時間応答 1次遅れ系の伝達関数と時間応答、2次遅れ系の伝達関数と時間応答 PID 制御と時間応答</p> <p>第 40 回 中間試験</p> <p>第 41～48 回 周波数伝達関数 1次遅れ系の周波数伝達関数と周波数応答、2次遅れ系の周波数伝達関数と周波数応答</p> <p>第 49～55 回 制御システムの安定性 特性方程式、フィードバック制御系の安定条件、ナイキストの安定判別法</p> <p>第 56～59 回 演習</p> <p>第 60 回 期末試験</p>		
	「初めて学ぶ PID 制御の基礎」江口 弘文 東京電機大学出版局、自作プリントなど		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、随時プリントを用いて補足説明を行う。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、演習課題 (理解度・考察) などを総合的に評価する。		
履修の留意点	電気・電子回路や機械の機構と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2014
科目名	生産工学	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Industrial Engineering	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	企業活動の重要課題である生産管理・品質管理技術について、その基礎から具体的実践技法までを身につけることができる。		
授業の概要	生産管理・品質管理の基礎について学習した上で、その実践的技法の1つひとつについて演習を交えながら学ぶ。 また、国際化の進展、消費者の安全確保、SDGsにも関連する技術者倫理や地球環境の保護等、最近の生産管理に必要とされている事項についても学ぶ。		
キーワード	QCD管理、技術者倫理		
授業計画	第1回 生産 第2回 企業と工場 第3回 経営と管理、経営・管理の歴史 第4回 生産管理 第5回 製品計画、生産計画 第6回 工程管理、工程計画 第7回 工程計画 第8回 作業の手配と統制 第9回 PERT 第10回 アローダイヤグラム 第11回 PERT計算 第12回 作業研究とは、工程分析 第13回 工程分析 第14回 オートメーション 第15回 動作研究 第16回 時間研究、作業研究の活用 第17回 品質管理 第18回 期末試験 第19回 試験解説 第20回 マネジメントシステム		
教科書、教材等	「生産管理入門」坂本碩也，細野泰彦 著（オーム社）、自作プリント		
授業の形式	教科書・プリントに準じて講義を進め、随時演習等を行う。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、演習（品質管理ツール等の習熟度）などで、総合的に評価する。		
履修の留意点	「知っている」だけでなく、実践技術として習得することが理想である。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2015
科目名	安全工学	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Safety Engineering	所属	電子技術科
担当教員名	有原 一文		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<p>安全確保に関し、職業人として必要とされる基本的なモラルを、科学・技術に基づく合理的な根拠による知識と行動能力として身につけて、状況に応じて安全・敏速・的確に判断し振舞うことができる。</p> <p>また、地域型環境問題や地球型環境問題について理解を深め、その対策の重要性を認識し行動できる。</p>		
授業の概要	<p>労働環境と安全衛生の関わりや安全衛生関係法規について学ぶ。</p> <p>更に、災害発生とそのメカニズムについて、よく解析した上で、安全管理体制と安全推進運動および安全確保について学ぶ。</p> <p>地球環境問題と資源のリサイクルについて学ぶ。</p>		
キーワード	労働安全衛生の意義、労働災害の現況、労働安全衛生法、安全管理体制、災害統計、地球環境問題、資源リサイクル		
授業計画	<p>第1回 安全衛生の基本</p> <p>第2回 労働災害の現状</p> <p>第3回 安全管理体制の確立</p> <p>第4～5回 安全衛生管理の進め方</p> <p>第6回 安全衛生活動</p> <p>第7回 作業計画と安全衛生の取組み</p> <p>第8～10回 安全基準</p> <p>第11回 手工具の取扱いに関する安全管理</p> <p>第12回 危険物の管理</p> <p>第13回 保護具</p> <p>第14回 安全心理と人間工学</p> <p>第15回 職場と健康</p> <p>第16回 地域型環境問題</p> <p>第17～18回 地球環境問題と資源のリサイクル</p> <p>第19回 期末試験</p> <p>第20回 まとめ</p>		
教科書、教材等	「安全衛生」厚生労働省認定教材、自作プリント		
授業の形式	教科書・プリントに準じて講義を進め、随時演習を行う。		
成績評価の方法	期末試験、授業への参加度（積極性）および受講状況などで評価する。		
履修の留意点	科学的な考え方を中心としつつ、現実に即した学習内容とする。		
参考・推薦図書等	「よくわかるヒューマン・エラーゼロ対策テキストブック」日刊工業新聞社		

年度	2025	科目番号	2016
科目名	電子計測	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Electronic Measurements	所属	電子技術科
担当教員名	継枝 正行		
開講学期／単位数	Ⅲ期／4単位（40回）		
授業の到達目標	測定方法、測定値の評価方法について理解できる。 センサ、デジタル計測機器の仕組みと動作が理解できる。		
授業の概要	<p>「電子計測の基礎」では、電子計測の概要、測定の方法の基礎について学ぶ。</p> <p>「センサ」では、各種センサの種類、動作原理およびその応用について学ぶ。</p> <p>「データ変換」では、電子計測と制御において必要な種々のデータ変換について学ぶ。</p> <p>「電子計測器」では、基本的な各種の電子計測器の原理を学ぶ。</p> <p>「デジタル計測制御システム」では、計測の自動化や、より柔軟性に富んだ制御をするため、計算機を中心としたシステムを構成する上で必要な事項について学ぶ。</p> <p>「測定値と制御信号の伝送」では、計測分野における各種テレメータ方式を学ぶ。</p> <p>「応用計測」では超音波、レーザ、放射線等の性質を利用した電子応用計測について学ぶ。</p>		
キーワード	システム、制御、センサ、オペアンプ、A/D,D/A変換、計測器、計算機、伝送		
授業計画	<p>第1～3回 電子計測の基礎 測定の方法、測定値の評価、単位</p> <p>第4～12回 センサ 光センサ、磁気センサ、圧力センサ、温度センサ、位置センサ、超音波センサ、湿度センサ、ガスセンサ</p> <p>第13～18回 データ変換 レベル変換と周波数変換、A-D変換とD-A変換</p> <p>第19～24回 電子計測器 指示計器、波形表示装置、波形分析装置、記録装置</p> <p>第25～27回 デジタル計測制御システム 計算機の構成、入出力インタフェース、制御装置の駆動</p> <p>第28～29回 測定値と制御信号の伝送 直送式テレメータ、搬送式テレメータ、多重化伝送方式</p> <p>第30～36回 応用計測 超音波応用計測、レーザ応用計測、放射線応用計測、光ファイバ応用計測</p> <p>第37～39回 演習</p> <p>第40回 期末試験</p>		
教科書、教材等	「電子計測と制御」田所嘉昭 著（森北出版）		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、プリント等によって関連分野の説明や演習等を行う。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、授業への参加度（積極性）および演習課題の取組状況などを総合的に評価する。		
履修の留意点	電子デバイス、コンピュータ工学、通信工学と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2017	
科目名	アナログ電子回路 I	科目種別	専門 (必取得)	
科目名 : 英語	Analog Electronic Circuits I	所属	電子技術科	
担当教員名	泉田 福典			
開講学期/単位数	I 期 / 3 単位 (30 回)			
授業の到達目標	電子機器の基礎をなしているアナログ電子回路の設計および解析のための基礎知識を習得できる。まず、アナログ電子回路を構成する回路素子を理解できる。次に基本回路の原理や解析法を学びながら、実際の回路設計の手法を習得できる。			
授業の概要	<p>「増幅回路の基礎とバイアス回路」では、トランジスタの特性や性能を表現するパラメータの決め方、増幅回路の設計法、特性を計算する方法等について学ぶ。</p> <p>「小信号増幅回路」では、直接および CR 結合増幅回路の特徴、周波数特性とその要因について学ぶ。</p> <p>「負帰還増幅回路」では、安定に作動する増幅回路の原理と設計方法について学ぶ。</p> <p>「オペアンプ」では、オペアンプの基礎と様々なオペアンプを使った回路について学ぶ。</p> <p>「電力増幅回路」では、トランス結合 A 級電力増幅回路、B 級電力増幅回路の基本的な動作原理、設計方法等について学ぶ。</p>			
キーワード	増幅回路、バイアス回路、オペアンプ			
授業計画	第1回 増幅とは (原理、分類) 第2回 トランジスタ増幅回路の基礎 (原理) 第3回 基本増幅回路 第4回 h パラメータ 第5回 小信号等価回路 第6回 バイアス回路の安定度 第7回 バイアス回路の種類と特徴 第8回 演習 第9回 小信号増幅回路の基本特性 第10回 小信号増幅回路の設計 (設計条件) 第11回 バイアス回路の設計 第12回 電圧増幅度と入力インピーダンス 第13回 演習 第14回 接合形 FET の小信号増幅回路と等価回路 第15回 FET のバイアス回路	第16回 FET による小信号増幅回路 第17回 演習 第18回 負帰還の原理 第19回 エミッタ抵抗 R_e による負帰還 第20回 エミッタホロワ 第21回 多段増幅回路の負帰還 第22回 差動増幅回路の概要 第23回 演算増幅器の特性と等価回路 第24回 演算増幅器の基本的な使いかた 第25回 演習 第26回 電力増幅回路の基礎 第27回 A 級シングル電力増幅回路 第28回 B 級プッシュプル電力増幅回路 第29回 演習 第30回 期末試験		
教科書、教材等	「電子回路概論」高木茂孝・鈴木憲次 (実教出版)、「トコトンやさしい 電子部品の本」(日刊工業新聞社)、自作プリントなど			
授業の形式	教科書に準じて講義を進める。 また、プリント等によって補足説明や演習等を行う。			
成績評価の方法	小テスト、中間試験、期末試験の成績および授業への参加度等により総合的に判断する。			
履修の留意点	電気回路や電子デバイスの理論が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。			
参考・推薦図書等				

年度	2025	科目番号	2018	
科目名	アナログ電子回路Ⅱ	科目種別	専門（必取得）	
科目名：英語	Analog Electronic Circuits II	所属	電子技術科	
担当教員名	有原 一文			
開講学期／単位数	Ⅱ期／3単位（30回）			
授業の到達目標	<p>電子機器の基礎をなしているアナログ電子回路の設計及び解析のための基礎知識を習得できる。</p> <p>ラジオ受信機、テレビジョン受信機、オーディオアンプは、電子回路を利用した私達の最も身近にある機器の例である。</p> <p>これらの電子機器を構成する基本モジュール回路を取り上げ、その動作原理や解析法を学びながら、実際の電子機器の仕組みを理解できる。</p>			
授業の概要	<p>「高周波増幅回路」では、高周波信号を効率よく増幅する回路について学ぶ。</p> <p>「発振回路」では、発振条件、各種発振器の構成法、発振周波数、周波数安定度等について学ぶ。</p> <p>「変調回路・復調回路」では、正弦波変調方式におけるアナログ方式を中心に変調と復調の基礎と多重化方式について学ぶ。また具体的な変復調回路について学び、電子回路の通信における役割についての知識を習得する。</p> <p>「電源回路」では、直流電源の構成と、安定化の手法について学ぶ。</p>			
キーワード	高周波増幅回路、発振回路、変調・復調、マルチバイブレータ、電源回路			
授業計画	第1回 高周波増幅の基礎 第2回 高周波増幅回路の特性 第3回 演習 第4回 発振回路のなりたち 第5回 発振回路の原理 第6回 発振回路の分類 第7回 反結合発振回路 第8回 ハートレー発振回路 第9回 コルピッツ発振回路 第10回 ウィーンブリッジ形発振回路 第11回 CR移相形発振回路 第12回 水晶発振回路の種類と特徴 第13回 VCOとPLL回路 第14回 演習 第15回 変調・復調の基礎	第16回 振幅変調 第17回 振幅復調 第18回 周波数変調・復調 第19回 位相変調・パルス変調 第20回 演習 第21回 パルス波形と応答 第22回 マルチバイブレータ 第23回 ICを用いたマルチバイブレータ 第24回 波形整形回路 第25回 演習 第26回 制御形電源回路の構成 第27回 電源回路の諸特性 第28回 スイッチング電源回路 第29回 演習 第30回 期末試験		
教科書、教材等	「電子回路概論」高木茂孝・鈴木憲次（実教出版）、自作プリントなど			
授業の形式	教科書に準じて講義を進める。 また、プリント等によって補足説明や演習等を行う。			
成績評価の方法	小テスト、中間試験、期末試験の成績および授業への参加度等により総合的に判断する。			
履修の留意点	電気回路や電子デバイスの理論が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。			
参考・推薦図書等				

年度	2025	科目番号	2019
科目名	デジタル電子回路	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Digital Electronic Circuits	所属	電子技術科
担当教員名	継枝 正行		
開講学期／単位数	Ⅱ期／4単位（40回）		
授業の到達目標	<p>デジタル回路に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用できる能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2進回路の基本（ゲート、真理値、ブール代数、カルノー図など）が理解できる。 ・カウンタ回路、コンパレータ、他の動作が理解でき、回路の基本設計ができる。 		
授業の概要	<p>「デジタル情報系と回路」では、デジタル回路の基本概念とその展望を学ぶ。 「ブール代数とデジタル回路」では、デジタル回路の設計の基礎となるブール代数を学ぶ。 「デジタル回路の設計法」では、MIL記号と設計の考え方を学ぶ。 「デジタル回路の実現素子」では、デジタル回路の構成素子についてを学ぶ。 「組合せ回路」では、エンコーダとデコーダ、コンパレータなどの動作や回路例を学ぶ。 「2進演算回路」では、加算、減算といった演算回路の動作や回路例を学ぶ。 「フリップフロップ」では、各フリップフロップの動作や回路例を学ぶ。 「カウンタとレジスタ」では、それぞれの種類や機能、回路例について学ぶ。 「デジタルIC」では、ICの分類や実用的に用いる標準ロジックICについて学ぶ。</p>		
キーワード	2値論、フリップフロップ、		
授業計画	<p>第1～3回 デジタル情報系と回路（デジタルとアナログ、記数法、符号系）</p> <p>第4～9回 ブール代数とデジタル回路 （ブール代数の基本法則、ド・モルガンの定理、論理式の単純化、基本論理素子、論理式から論理回路）</p> <p>第10回 小試験</p> <p>第11～14回 デジタル回路の設計法（MIL記法、論理の一致、AND-OR相互変換）</p> <p>第15～17回 デジタル回路の実現素子（基本素子、TTL IC、CMOS IC、実習）</p> <p>第19回 小試験</p> <p>第20～24回 組み合わせ回路（エンコーダ、デコーダ、データセレクタ、コンパレータ）</p> <p>第25～28回 演算回路（加算回路、減算回路）</p> <p>第29回 小試験</p> <p>第30～34回 フリップフロップ</p> <p>第34～38回 カウンタとレジスタ</p> <p>第39回 デジタルIC</p> <p>第40回 期末試験</p>		
教科書、教材等	「デジタル回路」伊原充博・若海弘夫・吉澤昌純 共著（コロナ社）、自作プリント		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、プリント等によって関連分野の説明や演習等を行う。		
成績評価の方法	小試験、期末テスト、演習レポート（理解度・設計力）などを総合的に評価する。		
履修の留意点	情報工学概論やコンピュータ工学、デジタル電子回路実験と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2020
科目名	電子デバイス	科目種別	専門
科目名：英語	Electronic Devices	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	汎用電子部品の仕様・特性、用途が理解でき、部品の識別ができる。		
授業の概要	電子回路で利用する電子部品には、抵抗器・コイル・コンデンサなどの基本電子部品、トランジスタ・ダイオード・ICなどの半導体部品、各種センサなど多岐にわたっている。その中でも利用される頻度の高い部品について、その特性、規格、形状、使用法等を講義や演習により学ぶ。		
キーワード	受動部品、能動部品、規格・仕様		
授業計画	第1回 導入、抵抗器 第2回 コイル 第3回 コンデンサ 第4回 ダイオード概要 第5回 定電圧・定電流ダイオード 第6回 発光、フォト、レーザダイオード 第7回 トランジスタ概要 第8回 バイポーラトランジスタ 第9回 電界効果トランジスタ 第10回 パワートランジスタ 第11回 DCモータ、ステッピングモータ 第12回 トランス、リレー、スピーカ、電流計（アナログ） 第13回 温度センサ、赤外線センサ、Cdsセル 第14回 圧力センサ、ホール素子、リードスイッチ 第15回 超音波センサ、フォトインタラプタ、ロータリーエンコーダ、マイクロフォン 第16回 オペアンプ、水晶発振子 第17回 ACアダプタ、定電圧電源用IC、半導体メモリ、フォトカプラ 第18回 イヤホン、太陽電池、光ファイバケーブル、ネオン管、ブザー 第19回 期末試験 第20回 まとめ		
教科書、教材等	「トコトンやさしい 電子部品の本」（日刊工業新聞社）、自作プリント		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、資料提示等によって関連分野の説明や演習等を行う。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、授業への参加度（積極性）などで評価する。		
履修の留意点	各実験の基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2021
科目名	通信工学	科目種別	専門
科目名：英語	Telecommunication Engineering	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期／単位数	IV期／2単位（20回）		
授業の到達目標	有線通信及び無線通信の仕組み等の知識を身につけることができる。 情報ネットワークの仕組み等の知識を身につけることができる。		
授業の概要	通信技術史を学び、その発達経緯を知ることにより、現代通信技術について理解を深める。 現在利用されている通信機器や通信技術を例に、その仕組みについて理解を深める。 LAN やインターネットなどのネットワークの基礎知識について学ぶ。		
キーワード	変調、多重化、指向特性、LAN、WAN、インターネット、IP、TCP、回線交換		
授業計画	第 1 回 授業概要説明、「通信」とは 第 2～3 回 通信のしくみ（通信の基礎知識と通信技術の歴史） 第 4～5 回 通信のしくみ（無線通信のしくみ） 第 6 回 通信のしくみ（固定電話のしくみ） 第 7～8 回 通信のしくみ（モバイル通信のしくみ） 第 9 回 通信のしくみ（IP 電話のしくみ） 第 10 回 中間試験 第 11 回 ネットワーク技術（LAN、WAN、MAC アドレス、イーサネット） 第 12～13 回 ネットワーク技術（OSI 参照モデル、TCP/IP プロトコル群） 第 14～15 回 ネットワーク技術（インターネット、IP アドレス） 第 16～17 回 ネットワーク技術（TCP、UDP） 第 18 回 ネットワーク技術（IP ルーティング） 第 19 回 ネットワーク技術（情報セキュリティ技術） 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	「通信のしくみ」（新星出版社）、「TCP/IP ネットワーク」（技術評論社）、演習プリント		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、プリント等によって関連分野の説明を行う。		
成績評価の方法	中間試験、期末試験、授業への参加度（積極性）および演習レポート等提出状況で評価する。		
履修の留意点	現代社会ではネットワークに関わる知識は不可欠であり、通信工学実験と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等	3 分間ネットワーク基礎講座（技術評論社）		

年度	2025	科目番号	2022
科目名	コンピュータ工学 I	科目種別	専門
科目名：英語	Computer Engineering I	所属	電子技術科
担当教員名	泉田 福典		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	スマートフォンをはじめ、電子機器などの制御に用いられているマイクロコンピュータ（マイコン）の基本的な仕組みと動作について理解できる。		
授業の概要	マイコンの一つである PIC マイコンを取り上げ、メモリや演算装置、入出力ポートなど内部のハードウェア構成を学ぶ。その上で、プログラム命令実行の流れや命令の種類について学ぶ。		
キーワード	マイコン、PIC、制御、アーキテクチャ、アセンブラ言語、マシン語		
授業計画	第 1 回 マイコンの概要 第 2 回 コンピュータの基本構成 第 3 回 マイコン制御 第 4 回 PIC マイコン 第 5 回 PIC16F84A のアーキテクチャ 第 6 回 各種レジスタ 第 7 回 メモリ 第 8 回 タイマ、割り込み 第 9 回 命令の実行 第 10 回 プログラム開発の流れ 第 11 回 アセンブラ言語、マシン語 第 12 回 プログラムの書き方 第 13 回 バイト対応命令① 第 14 回 バイト対応命令② 第 15 回 ビット対応命令 第 16 回 リテラル対応命令 第 17 回 制御命令 第 18 回 期末試験 第 19 回 期末試験解説 第 20 回 プログラミングの基礎		
教科書、教材等	「図解 PIC マイコン実習第 2 版 ゼロからわかる電子制御」（森北出版）、データシート		
授業の形式	教科書・プリントに準じて講義を進める。		
成績評価の方法	期末試験、課題レポートで評価する。		
履修の留意点	情報工学概論やデジタル電子回路と関連付けて学習するのが望ましい。		
参考・推薦図書等	図解コンピュータアーキテクチャ入門（堀桂太郎著：森北出版）		

年度	2025	科目番号	2023
科目名	コンピュータ工学Ⅱ	科目種別	専門
科目名：英語	Computer Engineering II	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	マイクロコンピュータの入出力インタフェースを理解し、電子機器に使用されるスイッチやLEDをはじめとした外部デバイスや装置とのインタフェース回路が設計できる。		
授業の概要	PICマイコン内部の入出力ポート回路の仕組みや特性を学習した上で、PICマイコンと外部デバイスや装置を接続するために必要となる電子部品や回路技術を学習する。		
キーワード	P I Cマイコン、インタフェース、入出力、L E D、スイッチ、モータ		
授業計画	第 1 回 学習の目的、概要等 第 2 回 出力ポートの特性 第 3 回 出力電流増幅 第 4 回 高電圧・負電圧の出力 第 5 回 パルス出力 第 6 回 入力ポートの特性 第 7 回 高電圧の入力インタフェース 第 8 回 リレー、フォトカプラ 第 9 回 L E Dの駆動 第 10 回 7セグメントL E Dの駆動 第 11 回 スwitchのインタフェース 第 12 回 シリアル通信インタフェース 第 13 回 パラレル通信インタフェース 第 14 回 D Cモータの駆動回路 第 15 回 D CモータのP W M制御 第 16 回 ステッピングモータの駆動回路 第 17 回 ステッピングモータの1,2 及び1-2 相励磁 第 18 回 期末試験 第 19 回 期末試験解説 第 20 回 ラジコン用サーボ・モータのインタフェース		
教科書、教材等	「PICマイコンのインターフェース101」小川 晃 著、CQ出版社		
授業の形式	教科書・演習プリントに準じて講義を進める。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、授業への参加度（積極性）などで評価する。		
履修の留意点	デジタル・アナログ電子回路等の教科と関連付けて学習すること。		
参考・推薦図書等	メカトロニクスのための電子回路基礎（西堀賢司著：コロナ社）		

年度	2025	科目番号	2024
科目名	総合演習	科目種別	専門
科目名：英語	General Practice	所属	電子技術科
担当教員名	佐藤 聖一		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	企業で求められる職業人としての素養や、専門知識を総合的に学び、就職活動の基礎的能力と各種専門資格を取得する学力を身につけることができる。		
授業の概要	就職試験対策では、就職活動の進め方、各種就職試験対策、既出問題研究及び個別面談を行い、就職活動において内定獲得に必要なとされる能力向上を図り幅広い就職支援を行う。専門科目演習では専門教育科目で学んだ専門知識に関する基礎問題を総合的に演習することで幅広く知識を定着させ実践力な活用力を養い、就職のための専門試験対策、各種専門資格試験対策に役立てる。		
キーワード	エントリーシート、履歴書、面接、作文、資格取得、SPI 試験、一般教養、適性試験		
授業計画	<p>【就職試験対策】</p> <p>第 1 回 就職活動の進め方情報収集の仕方、履歴書・提出書類の書き方、就職ガイダンス参加の心得、会社訪問と面接の受け方</p> <p>第 2 回 一般教養・常識試験対策</p> <p>第 3 回 一般教養・常識試験対策</p> <p>第 4 回 適性試験対策</p> <p>第 5 回 適性試験対策</p> <p>第 6 回 SPI 試験対策</p> <p>第 7 回 SPI 試験対策</p> <p>第 8 回 作文、論文対策</p> <p>第 9 回 作文、論文対策</p> <p>第 10 回 面接試験対策</p> <p>【専門科目演習】</p> <p>第 11 回 電気回路、静電気・磁気、直流回路、交流回路</p> <p>第 12 回 電気回路、静電気・磁気、直流回路、交流回路</p> <p>第 13 回 電子回路、半導体の基礎、各種半導体、トランジスタ、FET、増幅回路、帰還回路</p> <p>第 14 回 電子回路、半導体の基礎、各種半導体、トランジスタ、FET、増幅回路、帰還回路</p> <p>第 15 回 論理回路、基本論理演算、組合せ回路、フリップフロップ、順序回路、演算回路</p> <p>第 16 回 論理回路、基本論理演算、組合せ回路、フリップフロップ、順序回路、演算回路</p> <p>第 17 回 伝送理論、伝送理論の基礎、電気通信回線の電気的特性、各種現象</p> <p>第 18 回 伝送理論、伝送理論の基礎、電気通信回線の電気的特性、各種現象</p> <p>第 19 回 伝送技術、変調方式と多重伝送方式、伝送路上の諸現象、伝送路技術、PCM 伝送、各種ケーブルの特徴</p> <p>第 20 回 伝送技術、変調方式と多重伝送方式、伝送路上の諸現象、伝送路技術、PCM 伝送、各種ケーブルの特徴</p>		
教科書、教材等	「産技短就職ガイド」、演習プリント等		
授業の形式	演習、個別相談		
成績評価の方法	演習問題の成績、文章や面接における表現力および授業への参加度（積極性）などにより総合的に評価する。		
履修の留意点	企業で求められる職業人として必要な素養や専門知識の向上が図られるよう、自分で将来の明確な目標を設定して積極的に取り組むことが望ましい。		
参考・推薦図書等	「職業社会論」テキスト		

年度	2025	科目番号	2025
科目名	集積回路工学	科目種別	専門
科目名：英語	Integrated Circuits	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期／単位数	IV期／2単位（20回）		
授業の到達目標	集積回路の製作工程が理解できる。集積回路の有用性が理解できる。製造装置の技術と知識が習得できる。半導体の基礎知識が習得できる。		
授業の概要	集積回路とはどのようなものを把握し、その有効性を理解する。そして、集積回路を製作する手順や集積回路上に素子がどのように構成されるかをエピタキシャル成長・酸化・イオン注入・描画等の技術を通して学ぶ。 その上で、実際に使用される各種集積回路の基本的構造について習得する。		
キーワード	単結晶、エピタキシャル成長、リソグラフィ、エッチング、		
授業計画	第1～2回 半導体プロセス全体像 第3～4回 前工程の概要 第5～6回 洗浄・乾燥ウェットプロセス 第7回 イオン注入・熱処理プロセス 第8～9回 リソグラフィプロセス 第10～11回 エッチングプロセス 第12～13回 成膜プロセス 第14回 平坦化 (CMP) プロセス 第15～16回 CMOS プロセスフロー 第17～18回 後工程プロセスの概要 第19回 後工程の動向 第20回 期末試験		
教科書、教材等	「よくわかる半導体プロセスの基本と仕組み」佐藤淳一 著（秀和システム）、自作プリント		
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、重要な点についてはプリントを用いて補足する。		
成績評価の方法	小テスト、期末試験、授業への参加度（積極性）などで評価する。		
履修の留意点	電気・電子回路と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2026
科目名	電気工学実験 I	科目種別	専門 (必取得)
科目名 : 英語	Electrical Engineering Laboratory I	所属	電子技術科
担当教員名	三浦 幸喜 / 佐藤 聖一 / 泉田 福典		
開講学期 / 単位数	I 期 / 4 単位 (40 回)		
授業の到達目標	<p>本実験では、電気回路理論 (直流、交流) と電磁気理論に関する各種計測を通して基礎理論と原理を検証し、知識を理解、定着させる。</p> <p>同時に計測器の使用法、実験手法を理解し、実験データの処理、結果に対する考察および報告書作成などの実験に関する基礎事項について実践できる。</p>		
授業の概要	<p>学生は 2 人が 1 組になって実験を進める。設定されたテーマごとに実験を行って報告書を作成する。</p> <p>学生諸君は実験結果を記録するために実験ノートを用意し、それをもとに指定された様式にしたがって期日までに実験報告書を提出する。</p> <p>実験に先立ち、テーマについて把握しておく。</p>		
キーワード	電気回路 (直流、交流)、電磁気学、計測、測定器の使い方、実験データ処理方法、実験報告書		
授業計画	<p>第 1 回 導入、実験方法とレポートについて</p> <p>第 2～4 回 オームの法則に関する実験 第 5～7 回 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第 8～10 回 抵抗の直・並列接続に関する実験 第 11～13 回 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第 14～16 回 キルヒホッフの法則に関する実験 第 17～19 回 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第 20～22 回 { ブリッジ回路に関する実験 第 26～33 回 { 自己インダクタンス L の測定に関する実験 第 33～35 回 { 電磁誘導に関する実験</p> <p>第 23～25 回 { データ分析、考察、調査、報告書作成 第 23～25 回 { 第 36～38 回 {</p> <p>第 39～40 回 まとめ</p>		
教科書、教材等	自作プリント、各実験装置等		
授業の形式	プリント等によって関連分野の説明や実験を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度 (積極性) および受講状況 (レポート提出等) で評価する。		
履修の留意点	電気理論が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等	「電気実験 基礎・計測編」電気学会 (オーム社)		

年度	2025	科目番号	2027
科目名	電気工学実験Ⅱ	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Electrical Engineering Laboratory II	所属	電子技術科
担当教員名	有原 一文／三浦 幸喜／泉田 福典		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	<p>本実験では、電気回路理論（直流、交流）と電磁気理論に関する各種計測を通して基礎理論と原理を検証し、知識を理解、定着させる。</p> <p>同時に計測器の使用法、実験手法を理解し、実験データの処理、結果に対する考察および報告書作成などの実験に関する基礎事項について実践できる。</p>		
授業の概要	<p>学生は2人が1組になって実験を進める。設定されたテーマごとに実験を行って報告書を作成する。</p> <p>学生諸君は実験結果を記録するために実験ノートを用意し、それをもとに指定された様式にしたがって期日までに実験報告書を提出する。</p> <p>実験に先立ち、テーマについて把握しておく。</p>		
キーワード	単相交流電力の測定、LCR共振回路、磁性体の交流磁気特性		
授業計画	<p>第1回 導入</p> <p>第2～4回 第8～10回 第14～16回</p> <p>第5～7回 第11～13回 第16～18回</p> <p>第19～20回 まとめ</p> <p>単相交流電力の測定に関する実験 LCR共振回路に関する実験 磁性体の交流磁気特性に関する実験</p> <p>データ分析、考察、調査、報告書作成</p>		
教科書、教材等	自作プリント、各実験装置等		
授業の形式	プリント等によって関連分野の説明や実験を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度（積極性）および受講状況（レポート提出等）で評価する。		
履修の留意点	電気理論が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等	「電気実験 基礎・計測編」電気学会（オーム社）		

年度	2025	科目番号	2028
科目名	自動制御実習	科目種別	専門
科目名：英語	Automatic Control Practice	所属	電子技術科
担当教員名	有原 一文		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	制御工学（座学）で学んだ内容について、具体的な解析を通して理解を深めることができる。		
授業の概要	制御工学で学んだ制御系の応答や制御系の安定性について実際にベクトル軌跡やボード線図を描き考察する。また、「制御工学」の分野では大学・高専などの教育機関や企業において広く利用されているソフトウェアである Scilab/Xcos の利用法について学習し、時間応答や周波数応答の描画に加え、制御システムのシミュレーションを行うなど「制御工学」の理解を深めるための実習を行う。		
キーワード	Scilab、Xcos、安定判別、ボード線図、ナイキスト軌跡、ゲイン余裕、位相余裕		
授業計画	第 1 回 実習概要説明 第 2 回 表計算ソフトを用いた応答解析（一次遅れ系、二次遅れ系） 第 3 回 表計算ソフトを用いた応答解析（一次遅れ系、二次遅れ系） 第 4 回 実習レポート整理 第 5 回 実習レポート整理 第 6 回 Scilab、Maxima の説明、演習 第 7 回 Scilab、Maxima 演習 第 8 回 Scilab を用いた応答解析（一次遅れ系、二次遅れ系） 第 9 回 Scilab を用いた応答解析（一次遅れ系、二次遅れ系） 第 10 回 実習レポート整理 第 11 回 実習レポート整理 第 12 回 Scilab を用いた応答解析（ボード線図、ナイキスト軌跡） 第 13 回 Scilab を用いた応答解析（ボード線図、ナイキスト軌跡） 第 14 回 実習レポート整理 第 15 回 実習レポート整理 第 16 回 Xcos の説明、演習 第 17 回 Xcos を用いた応答解析（PID 制御） 第 18 回 Xcos を用いた応答解析（PID 制御） 第 19 回 実習レポート整理 第 20 回 実習レポート整理		
教科書、教材等	実習プリント、その他		
授業の形式	資料を参考にしながら実習を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度（積極性）および演習レポート等提出状況などで評価する。		
履修の留意点	専門学科の「制御工学」と関連付けて学習する必要がある。		
参考・推薦図書等	「初めて学ぶ PID 制御の基礎」江口 弘文 東京電機大学出版局		

年度	2025	科目番号	2029
科目名	電子デバイス実験	科目種別	専門
科目名：英語	Electronic Device Laboratory	所属	電子技術科
担当教員名	佐藤 聖一		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	電子デバイスの中でも、特に重要なデバイスについて、その性質、特性、使用上の注意点について、実験を通して学び、その取扱い方法を習得できる。		
授業の概要	毎回異なったテーマで実験を行い、決められた期日までにレポートを提出することで、習熟を深める。		
キーワード	コンデンサ、サーミスタ、センサ		
授業計画	第1～2回 LEDの実験（ブレッドボードを用いた実験） 第3～4回 実験レポート作成 第5～6回 非安定マルチバイブレータを利用した点滅器 第7～8回 実験レポート作成 第9～10回 抵抗素子の実験（半固定抵抗・可変抵抗の抵抗特性の測定） 第11～12回 実験レポート作成 第13～14回 ホールセンサ駆動用定電流回路の実験 第15～16回 実験レポート作成 第17～18回 センサデバイスの実験 第19～20回 実験レポート作成		
教科書、教材等	自作プリントなど		
授業の形式	プリント等によって関連分野の説明や実験を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度および受講状況（レポート提出等）等で評価する。		
履修の留意点	電子デバイスと関連付けて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2030
科目名	電子機器製作実習	科目種別	専門
科目名：英語	Electronic Assembly and Testing	所属	電子技術科
担当教員名	有原 一文		
開講学期／単位数	I期／6単位（60回）		
授業の到達目標	<p>電子機器組立て検定課題である「省エネコントローラ」の製作を通して、電子部品の取り付けと組立て、配線と端末処理、接続法、電子機器接続法等の電気・電子関連基本技術を身につけることができる。</p> <p>インターンシップでは、ものづくり企業での体験を通じて、職業適性など職業選択について考え、実務能力向上等学習意欲を高め、就業後にミスマッチがなく職業生活に適應できる力を高めることをできる。</p>		
授業の概要	電子機器組立て検定課題である「省エネコントローラ」を通して部品の取り付けと組立て、配線と端末処理、接続法、電子機器接続法等の電気・電子関連基本技術習得のための実習を行う。		
キーワード	技能検定、組立て、カラーコード、はんだ付け、からげ、フォーミング、束線処理、インターンシップ		
授業計画	<p>第1～2回 実習概要の説明、工具の確認、作業安全の説明、抵抗器のカラーコード</p> <p>第3～4回 はんだ付けの基礎、作業ビデオ上映、はんだ付け練習</p> <p>第5～6回 抵抗器のフォーミング練習、はんだ付け練習</p> <p>第7～8回 はんだ付け練習、はんだ付けの評価および指導</p> <p>第9～10回 検定材料の配布、配布材料の確認</p> <p>第11～12回 検定課題の説明、課題書の解説</p> <p>第13～14回 作業手順および作業方法の説明、基板製作</p> <p>第15～16回 作業手順および作業方法の説明、基板製作</p> <p>第17～18回 作業手順および作業方法の説明、基板製作</p> <p>第19～20回 作業手順および作業方法の説明、基板製作</p> <p>第21～22回 作業手順および作業方法の説明、基板製作</p> <p>第23～24回 シャーシへの部品取り付け、シャーシ組立て</p> <p>第25～26回 調整と動作確認、成果品の評価および指導</p> <p>第27～28回 検定課題製作（模擬検定試験）</p> <p>第29～30回 検定課題製作（模擬検定試験）</p> <p>第31～32回 検定課題製作（模擬検定試験）</p> <p>第33～34回 検定課題製作（模擬検定試験）</p> <p>第35～36回 調整と動作の確認</p> <p>第37～38回 成果品の評価および指導</p> <p>第39～40回 成果品の評価および指導</p> <p>第41～60回 インターンシップ</p>		
教科書、教材等	自作プリント・資料による講義と関連した課題による実習を行う。		
授業の形式	実技指導を交えて実習を進める。		
成績評価の方法	課題、授業への参加度（積極性）および製作物等をで評価する。		
履修の留意点	総合製作実習の基礎となるので関連付けて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等	電子機器組立ての総合研究（技術評論社）		

年度	2025	科目番号	2031
科目名	ソフトウェア実習 I	科目種別	専 門
科目名：英語	Software Practice I	所属	電 子 技 術 科
担当教員名	佐藤 聖一		
開講学期／単位数	I 期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	<p>コンピュータを用いた文書作成、データ処理、ネットワーク利用など、技術者としてコンピュータの効率的な利用方法の習得は必須となっている。</p> <p>本実習の目標は、アプリケーションを利用してコンピュータをツール（道具）として効率的に利用する方法を身につけることができる。</p>		
授業の概要	<p>～ アプリケーションソフト実習 ～</p> <p>パソコンの基本的な使用方法を習得した後に、各種アプリケーションソフトの使用法を学ぶ。基本的にはテキストに沿って実習を進めるが、適宜、課題に取組み、評価の対象とする。</p> <p>プレゼン課題に取組み、各自プレゼンテーションを行う。</p>		
キーワード	Windows, インターネット、メール、ワード、エクセル、VISIO、パワーポイント、プレゼン		
授業計画	<p>第 1 ～ 4 回 コンピュータ (Windows10) 、ネットワーク、メール (当校専用 Google Workspace) の利用方法</p> <p>第 5 ～12 回 ワードプロソフト (WORD) の使用方法</p> <p>第 13～22 回 表計算ソフト (EXCEL) の使用方法</p> <p>第 23～28 回 作図ソフト (VISIO) の使用方法</p> <p>第 29～34 回 プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の使用方法</p> <p>第 35～40 回 プレゼン課題と取組みと発表</p>		
教科書、教材等	<p>「できる WORD & EXCEL」 田中亘・小舘由典 著 (インプレス) 、</p> <p>「できる Word & Excel & PowerPoint」 井上香緒里 著 (インプレス)</p> <p>「ひと目でわかる VISIO」 岸井徹 著 (日経 BP 社) 、演習課題資料</p>		
授業の形式	講義による説明と、それに関連した課題による実習を行う。		
成績評価の方法	演習レポートの提出状況、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2032
科目名	ソフトウェア実習Ⅱ	科目種別	専 門
科目名：英語	Software Practice II	所属	電 子 技 術 科
担当教員名	泉田 福典		
開講学期／単位数	Ⅱ期／4単位（40回）		
授業の到達目標	C言語による基本的なプログラムを作成できること。 ポインタや関数、変数のスコープ、記憶クラスなどについて理解していること。		
授業の概要	<p>～ C言語プログラミング基礎 ～</p> <p>Windows上でUnixライクな環境を提供するCygwinを使って、基本的なC言語のプログラムの作成を行いながら、C言語の文法(ルール)とプログラム作成方法について学ぶ。</p> <p>さらには、ポインタや関数、スコープ、記憶クラスなどについて理解し、それらの活用したプログラムの作成についても学ぶ。</p>		
キーワード	プログラミング、C言語、フローチャート		
授業計画	<p>第1～2回 導入 学習の目的 C言語とは プログラム作成手順</p> <p>第3～4回 構造化プログラミング</p> <p>第5～12回 入出力と計算 データの出力 式の計算</p> <p>第13～21回 選択処理(分岐) if文 if～else文 switch文</p> <p>第22回 中間試験</p> <p>第23～31回 反復処理(繰り返し) for文 while文 do～while文 無限ループ</p> <p>第32～35回 配列 配列の宣言、初期化 整列(ソート)</p> <p>第36～39回 関数 システム関数 引数、戻り値 参照による呼び出し</p> <p>第40回 期末試験</p>		
教科書、教材等	「学生のための詳解C」中村隆一著（東京電気大学出版局）、演習プリント、手順書		
授業の形式	講義による説明と、それに関連した課題による実習を行う。		
成績評価の方法	演習レポートの提出状況、試験結果、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2033
科目名	アナログ電子回路実験 I	科目種別	専門 (必取得)
科目名 : 英語	Analog Electronic Circuit Laboratory I	所属	電子技術科
担当教員名	泉田 福典		
開講学期/単位数	I 期 / 4 単位 (40 回)		
授業の到達目標	<p>アナログ電子回路実験は、電気・電子工学の技術を様々な分野に応用するための電子回路の基礎を、実験を通じて学ぶ科目の一つである。</p> <p>授業の目標は、各種電子回路の特性等を測定するための各種計測機器の取り扱いや計測方法について理解できる。また、アナログ電子回路の基本的な回路構成とその動作について理解できる。</p>		
授業の概要	<p>「実験方法とレポートについて」では、実験の授業形式、実験を行うに当たっての注意点とレポート作成・提出方法などについて説明する。</p> <p>「ダイオードの特性の実験」では、各種ダイオードの電流・電圧特性を測定し、その動作について理解する。</p> <p>「トランジスタの静特性の実験」では、バイポーラトランジスタ・FET (電界効果トランジスタ) の静特性を測定し、その動作について理解する。</p> <p>「増幅回路」では、トランジスタのバイアス回路の種類と動作、典型的な増幅回路の動作特性について測定し、理解する。</p> <p>「電力増幅回路」では、スピーカー等を駆動するために必要な電力増幅回路の動作を確認し、各種特性を測定して動作について理解する。</p>		
キーワード	ダイオードの特性、トランジスタの特性、増幅回路		
授業計画	<p>第 1 回 導入、実験方法とレポートについて</p> <p>第 2～11 回 ダイオード特性の実験 スイッチングダイオード、フォトダイオードなど、各種ダイオードの特性の測定 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第 12～20 回 トランジスタの静特性の実験 バイポーラトランジスタの静特性の測定 FET の静特性の測定 直流負荷線の測定 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第 21～29 回 増幅回路の実験 固定バイアス・自己バイアス・電流帰還バイアスの各回路の測定 CR 結合増幅回路の入出力特性・周波数特性の測定 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第 30～38 回 電力増幅回路の実験 B 級プッシュプル増幅回路の増幅動作・入出力特性・周波数特性の測定 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第 39～40 回 まとめ</p>		
教科書、教材等	自作実験プリント		
授業の形式	実験プリント等によって関連分野の説明や実験等を行い、実験ごとにレポートを提出。		
成績評価の方法	実験レポート、授業への参加度 (積極性) および受講状況などで評価する。		
履修の留意点	専門学科の「アナログ電子回路」と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2034
科目名	アナログ電子回路実験Ⅱ	科目種別	専門
科目名：英語	Analog Electronic Circuit Laboratory II	所属	電子技術科
担当教員名	三浦 幸喜		
開講学期／単位数	Ⅱ期／4単位（40回）		
授業の到達目標	<p>アナログ電子回路実験は、電気・電子工学の技術を様々な分野に応用するための電子回路の基礎を、実験を通じて学ぶ科目の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子回路の特性等を測定するための各種計測機器の取り扱いや計測方法について理解できる。 アナログ電子回路の基本的な回路構成とその動作について理解できる。 		
授業の概要	<p>「オペアンプの実験」では、オペアンプによる反転・非反転増幅回路、微分回路、積分回路、フィルター回路等の動作と特性を学ぶ。</p> <p>「変復調回路」では、コレクタ変調回路、周波数変換回路、中間周波増幅回路、検波回路の動作について実験し、AMラジオ受信機の原理を総合的に理解する。</p> <p>「電源回路」では、交流電源から直流電源を作り出す回路の基本動作について理解し、安定化回路の仕組みについて実験的に学ぶ。</p>		
キーワード	オペアンプ、変復調回路、電源回路		
授業計画	<p>第1回 導入</p> <p>第2～11回 オペアンプの基本回路の実験 反転・非反転増幅回路、加算回路、減算回路 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第12～20回 オペアンプの応用回路の実験 微分回路、積分回路 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第21～29回 振幅変調回路の実験 コレクタ同調型LC発振回路、CR移相型発振回路、コレクタ変調回路(AM波出力) データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第30～38回 電源回路の実験 変圧回路、整流回路、平滑回路、安定化回路の実験 データ分析、考察、調査、報告書作成</p> <p>第39～40回 まとめ</p>		
教科書、教材等	自作実験プリント		
授業の形式	実験プリント等によって関連分野の説明や実験等を行い、実験ごとにレポートを提出。		
成績評価の方法	実験レポート、および授業への参加度（積極性）および受講状況などで評価する。		
履修の留意点	専門学科の「アナログ電子回路」と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2035
科目名	デジタル電子回路実験 I	科目種別	専門 (必取得)
科目名 : 英語	Digital Electronic Circuit Laboratory I	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期/単位数	Ⅲ期 / 4 単位 (40回)		
授業の到達目標	実験を通して、デジタル IC の使い方を理解するとともに、基本的なデジタル回路について、回路図を元にして製作や動作確認、故障解析ができる。		
授業の概要	電子機器組立て検定課題である「省エネコントローラ」を機能別に 8 つに分け、それぞれの機能について実験を通して理解する。 実験のまとめとして、ブレッドボード上に省エネコントローラを再構成する。		
キーワード	デジタル回路、組合せ論理回路、順序論理回路、発振回路、分周回路、カウンタ回路		
授業計画	第 1～2 回 LED 点灯回路実験 第 3～4 回 レポート作成 第 5～6 回 ゲート素子による組合せ論理回路実験 第 7～8 回 レポート作成 第 9～10 回 7segLED ドライブ回路実験 第 11～12 回 レポート作成 第 13～14 回 リレー駆動回路実験 第 15～16 回 レポート作成 第 17～18 回 双安定マルチバイブレータ実験 第 19～20 回 レポート作成 第 21～22 回 発振回路実験① 第 23～24 回 レポート作成 第 25～26 回 発振回路実験② 第 27～28 回 レポート作成 第 29～30 回 分周回路実験 第 31～32 回 レポート作成 第 33～34 回 カウンタ回路実験 第 35～36 回 レポート作成 第 37～40 回 省エネコントローラのデジタル回路製作・故障解析		
教科書、教材等	自作プリント、各実験装置等		
授業の形式	プリント等によって関連分野の説明や実験を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度 (積極性) 及び受講状況 (レポート提出等) で評価する。		
履修の留意点	デジタル電子回路が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等	「デジタル回路」伊原充博・若海弘夫・吉澤昌純 共著 (コロナ社)		

年度	2025	科目番号	2036
科目名	デジタル電子回路実験Ⅱ	科目種別	専門
科目名：英語	Digital Electronic Circuit Laboratory II	所属	電子技術科
担当教員名	継枝 正行		
開講学期／単位数	Ⅳ期／4単位（40回）		
授業の到達目標	デジタル回路に必要な A/D・D/A 変換回路の仕組みについて理解するとともに、ハードウェア記述言語と回路設計手法を理解し、FPGA（Field Programmable Gate Array）によりデジタル電子回路が構成できる。		
授業の概要	はじめに、アナログ量をデジタル量に変換する A/D 変換、その逆変換である D/A 変換について実験を通して基本動作と特徴を学ぶ。 次に、ハードウェア記述言語である Verilog-HDL によってソフトウェアレベルでデジタル電子回路を作成し、集積回路の 1 つである FPGA 上で動作させる手法について学ぶ。		
キーワード	A/D・D/A 変換、FPGA、Verilog-HDL、Altera		
授業計画	<p>第 1～12 回 A/D、D/A 変換実験 A/D、D/A 変換回路 サンプル・ホールド回路 サンプリング定理</p> <p>第 13～14 回 FPGA を用いた IC 設計手法 第 15～16 回 LED の点灯設計 第 17～18 回 バス配線の設計 第 19～22 回 デコーダ回路の設計 第 23～24 回 論理記述と構造記述 第 25～26 回 D-FF の設計 第 27～28 回 カウンタ回路の設計 第 29～30 回 シフトレジスタ回路の設計 第 31～32 回 7 セグメント LED の表示設計 第 33～35 回 階層化の技法 第 36～38 回 ステートマシンとしての設計 第 39～40 回 まとめ</p>		
教科書、教材等	自作プリント、A/D・D/A 実験装置、FPGA 実験装置等		
授業の形式	プリント等によって関連分野の説明や実験を行う。		
成績評価の方法	レポート提出等の状況、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点	デジタル電子回路が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2037
科目名	通信工学実験	科目種別	専門
科目名：英語	Telecommunication Engineering Laboratory	所属	電子技術科
担当教員名	継枝 正行／佐藤 聖一／泉田 福典		
開講学期／単位数	IV期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	近年、インターネットや携帯電話などに対する高機能化の要求が高まり、これに伴ってネットワーク技術が急速な進歩を遂げている。 本実験では、実際の通信信号の観測を通じて、通信技術およびネットワークの基礎知識を身につけることができる。		
授業の概要	「センサネットワーク実験」では、計測データを取得する方法として利用されている MQTT に着目し、そのネットワーク構築作業を通して、その仕組みについて理解する。 「無線モジュール、シリアル通信実験」では、シリアル通信無線モジュールのセットアップ方法及び通信データ解析を行い、その仕組みについて理解する。 「サーバ、ルータ、LAN 構築実験」では、有線及び無線 LAN の構築方法について学ぶ。		
キーワード	ネットワーク、センサ、TCP/IP、無線、シリアル通信、サーバ、ルータ、LAN		
授業計画	第 1 回 実験概要説明 第 2 回 通信技術およびネットワーク技術の用語について 第 3 回 センサネットワーク実験 第 4 回 センサネットワーク実験 第 5 回 センサネットワーク実験 第 6 回 実験レポート整理 第 7 回 実験レポート整理 第 8 回 実験レポート整理 第 9 回 無線モジュール、シリアル通信実験 第 10 回 無線モジュール、シリアル通信実験 第 11 回 無線モジュール、シリアル通信実験 第 12 回 実験レポート整理 第 13 回 実験レポート整理 第 14 回 実験レポート整理 第 15 回 サーバ、ルータ、LAN 構築実験 第 16 回 サーバ、ルータ、LAN 構築実験 第 17 回 サーバ、ルータ、LAN 構築実験 第 18 回 実験レポート整理 第 19 回 実験レポート整理 第 20 回 実験レポート整理		
教科書、教材等	「TCP/IP ネットワーク」(技術評論社)、自作プリント、各実験装置等		
授業の形式	プリント等によって関連分野の説明や実験を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度（積極性）および演習レポート等提出状況などで評価する。		
履修の留意点	通信工学が基礎となるので、関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025		科目番号	2038
科目名	マイコン制御及び実習 I		科目種別	専門 (必取得)
科目名 : 英語	Microcomputer Control and Practice I		所属	電子技術科
担当教員名	佐藤 聖一			
開講学期/単位数	Ⅲ期 / 4 単位 (40回)			
授業の到達目標	PIC マイコンのアーキテクチャを理解できる。 PIC マイコンシステムの汎用入出力プログラミング技術を習得できる。 IoT 技術を手軽に実現できる、小型パソコンとも言える「ラズベリーパイ」(ラズパイ)の取扱いの基礎知識を身に付けることができる。			
授業の概要	<p>～ マイコンによる制御 (その1) ～</p> <p>マイコン開発環境を使用し、マイコンにプログラムを書き込んで動作させることで、プログラミングの技術を習得する。</p> <p>また、マイコンで制御される代表的なハードウェアについて理解するとともに、それらをマイコンで制御する方法について学ぶ。</p> <p>～ ラズパイ取扱いの基礎 ～</p> <p>ラズパイのOSはLinuxであり、その基本的な取扱いについて実習を通じて学ぶ。</p> <p>そして、これにIoT技術を絡めて、その基礎を固めるように授業を進めていく。</p>			
キーワード	マイコン、PIC、プログラミング、制御、割込み、ラズパイ、Linux			
授業計画	第1回 導入 (ラズパイの概要) 第2回 演習用回路製作 第3回 インストール、各種設定 第4回 ラズパイの基本操作 第5回 Linux について 第6回 Python について 第7回 RPi.GPIO モジュール 第8回 WiringPi ライブラリ 第9回 WiringPi ライブラリ 第10回 WiringPi ライブラリ 第11回 WiringPi ライブラリ 第12回 WebIOPi アプリケーション 第13回 WebIOPi アプリケーション 第14回 WebIOPi アプリケーション 第15回 WebIOPi アプリケーション 第16回 シリアル通信 第17回 シリアル通信 第18回 シリアル通信 第19回 シリアル通信 第20回 まとめ	第21回 導入 (学習の目的) 第22回 導入 (PICマイコンの概要) 第23回 演習用回路製作 第24回 プログラム作成と動作確認 第25回 PICのアーキテクチャ 第26回 Cコンパイラの仕様 第27回 コンフィギュレーション 第28回 ビット演算処理のプログラム 第29回 LED表示制御プログラム 第30回 LED表示制御プログラム 第31回 スイッチ入力プログラム 第32回 スイッチ入力プログラム 第33回 圧電スピーカー制御プログラム 第34回 圧電スピーカー制御プログラム 第35回 7セグメントLED表示 第36回 7セグメントLED表示 第37回 割込み処理 第38回 割込み処理 第39回 液晶表示 第40回 液晶表示		
教科書、教材等	「C言語&MCCによるPICプログラミング大全」後閑哲也 (技術評論社)、「PICと楽しむRaspberryPi活用ガイドブック」後閑哲也 (技術評論社)、自作プリントなど			
授業の形式	教科書に準じて講義を進め、演習プリントによる課題演習を行う。			
成績評価の方法	実習課題、授業への参加度等を総合的に評価する。			
履修の留意点	コンピュータ工学、デジタル電子回路、ソフトウェア実習と関連づけて学習することが望ましい。			
参考・推薦図書等				

年度	2025		科目番号	2039
科目名	マイコン制御及び実習Ⅱ		科目種別	専門
科目名：英語	Microcomputer Control and Practice II		所属	電子技術科
担当教員名	佐藤 聖一			
開講学期／単位数	Ⅳ期／4単位（40回）			
授業の到達目標	<p>PICマイコンの代表的な周辺モジュールを使うことができる。</p> <p>「リアルタイムOS（RTOS；Real-Time Operating System）」は、マイコンで制御される「組み込みシステム」の基本となるソフトウェアである。</p> <p>OSを使った「組み込みシステム」は、携帯電話、デジタルカメラ、プリンタ、自動車、カーナビ、情報家電など身近なものから、人工衛星や惑星探査ロボットに至るまで、多くのシステムで使用されている。システムにおけるOSの役割を理解し、OSの機能を活用したプログラムの開発方法について習得できる。</p>			
授業の概要	<p>～ マイコンによる制御（その2）～</p> <p>PICマイコンの代表的な周辺モジュールの使い方を例題・課題を通して学ぶ。</p> <p>～ 組み込みプログラミング～</p> <p>FreeRTOSを使ったプログラムの考え方とプログラミングの手法について実習を通じて学ぶ。</p>			
キーワード	マイコン、周辺モジュール、プログラミング、RTOS、タスク			
授業計画	第1回 演習用回路製作 第2回 演習用回路製作 第3回 DACモジュール 第4回 DACモジュール 第5回 ADCモジュール 第6回 ADCモジュール 第7回 CCPモジュール（キャプチャ） 第8回 CCPモジュール（キャプチャ） 第9回 CCPモジュール（コンペア） 第10回 CCPモジュール（コンペア） 第11回 CCPモジュール（PWM） 第12回 CCPモジュール（PWM） 第13回 通信モジュール（UART） 第14回 通信モジュール（UART） 第15回 通信モジュール（SPI） 第16回 通信モジュール（SPI） 第17回 通信モジュール（I2C） 第18回 通信モジュール（I2C） 第19回 通信モジュール（1-Wire） 第20回 通信モジュール（1-Wire）	第21回 演習用ハードウェアの概要 第22回 演習用回路製作 第23回 演習用回路製作 第24回 プログラム作成と動作確認 第25回 OSの役割とRTOSについて 第26回 OSの役割とRTOSについて 第27回 タスクの実行管理 第28回 タスクの実行管理 第29回 タスクの実行管理 第30回 タスクの実行管理 第31回 排他処理 第32回 排他処理 第33回 イベントフラグ 第34回 イベントフラグ 第35回 タスク間通信 第36回 タスク間通信 第37回 メモリ管理 第38回 メモリ管理 第39回 時間管理 第40回 時間管理		
教科書、教材等	「C言語&MCCによるPICプログラミング大全」後閑哲也（技術評論社）、自作プリントなど			
授業の形式	自作プリントによる課題演習を行う。			
成績評価の方法	実習課題、授業への参加度等を総合的に評価する。			
履修の留意点	マイコン制御及び実習Ⅰ、デジタル電子回路、ソフトウェア実習と関連づけて学習することが望ましい。			
参考・推薦図書等				

年度	2025	科目番号	2040
科目名	総合製作実習	科目種別	専門
科目名：英語	Advanced Electronic Assembly and Testing	所属	電子技術科
担当教員名	継枝 正行		
開講学期／単位数	Ⅲ期／5単位（50回）		
授業の到達目標	電子回路製作、配線、組立て、動作確認など幅広い技能・技術を習得し、電子機器を一人で完成させ、技能検定「電子機器組立て」職種2級に合格することができる。		
授業の概要	技能検定「電子機器組立て」職種2級実技課題について、製作手順に沿って、基板製作、束線など要素毎に製作のポイントを確認しながら、制限時間内に検定の仕様を満たす製品が完成するようになるまで繰り返し製作する。 集中実習（約2週間）の形態をとり、最終日に技能検定試験を全員が受検する。		
キーワード	電子機器組立て、技能検定、プリント基板、束線、シャーシ組立て		
授業計画	第 1 回 製作概要 第 2 回 回路動作の概要 第 3 回 プリント基板部品実装作業（PB1，PB2） 第 4 回 プリント基板部品実装作業（PB2） 第 5 回 束線板釘打ち 第 6 回 束線製作 第 7 回 正面シャーシ組立て作業 第 8 回 底板シャーシ組立て作業 第 9 回 配線 第 10 回 フォーミング 第 11 回 調整 第 12 回 動作確認 第 13 回 評価 第 14 回 修正 第 15～25 回 検定課題製作及び評価・修正（2回目） 第 26～34 回 検定課題製作及び評価・修正（3回目） 第 35～38 回 検定課題製作及び評価・修正（4回目） 第 39～42 回 ウィークポイント個別練習 第 43～46 回 模擬検定試験（5回目） 第 47～50 回 検定試験		
教科書、教材等	関連プリント		
授業の形式	検定課題の説明や実習を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度（積極性）および受講状況（製作物の提出等）で評価する。		
履修の留意点	電気・電子回路、電子機器製作実習等と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

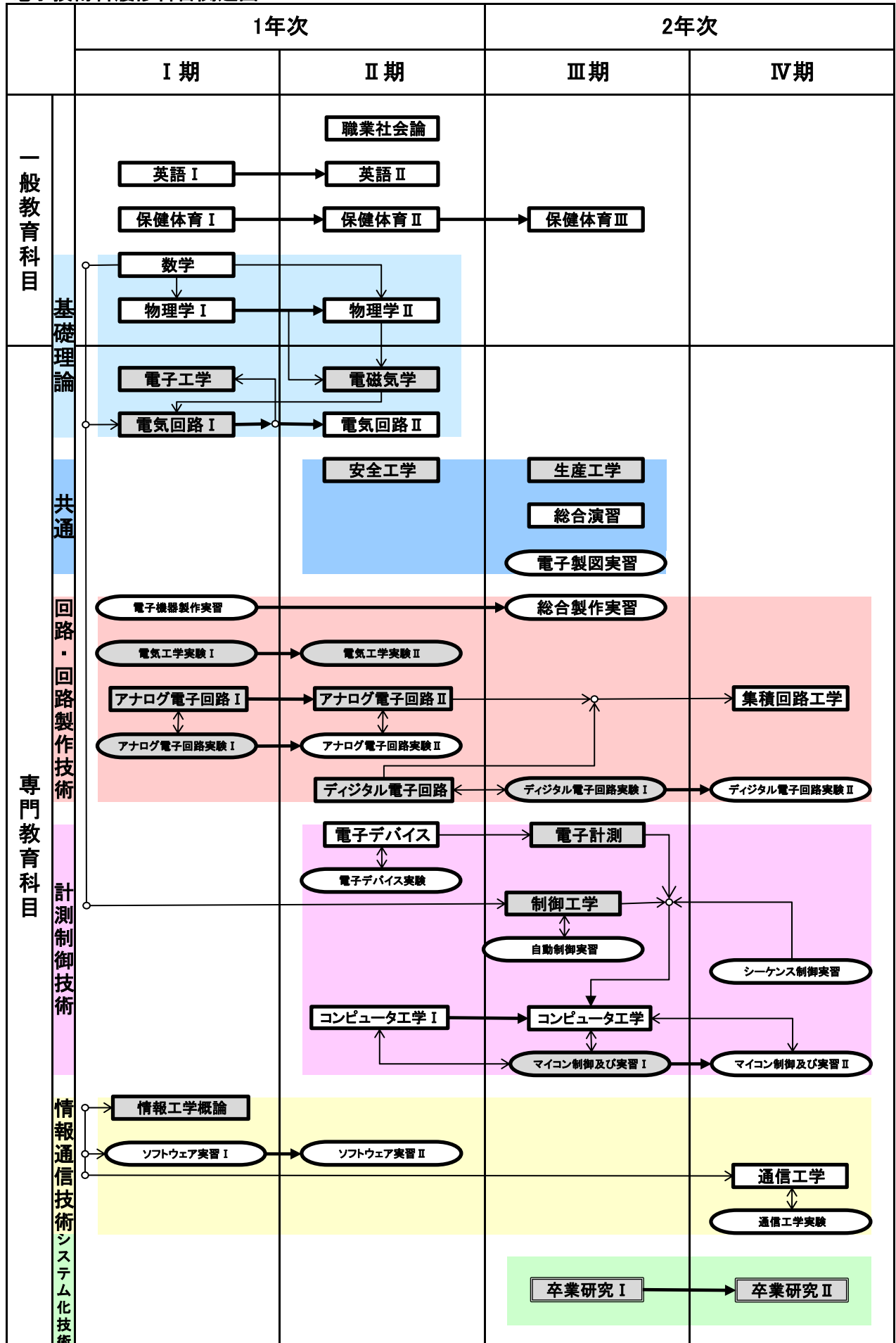
年度	2025	科目番号	2041
科目名	電子製図実習	科目種別	専門
科目名：英語	Electronic Drawing	所属	電子技術科
担当教員名	三浦 幸喜		
開講学期／単位数	Ⅲ期／4単位（40回）		
授業の到達目標	<p>近年、コンピュータの発達により設計図面がデータ化され、生産現場で直接加工データとして生かされるようになり生産効率が飛躍的に向上してきている。本実習では、JISに基づく電気関係製図の基礎技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JIS 規格、三角法などの製図の基礎的な事柄について理解し作図することができる。 ・ CAD による電子回路設計（結線図、回路シミュレーション、部品配置など）ができる。 ・ 基板加工について理解できる。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS 規格、三角法、接続図などの製図の基礎的な事柄について学習する。 ・ CAD を用いた電子回路の設計を通して、作図方法や回路動作のシミュレーション、加工データの生成方法について学ぶ。 ・ 基板加工の仕組みについて学ぶ。 		
キーワード	基礎製図、投影図、製作図、電気用図記号、電子回路図CAD、プリントサーキットボード（PCB）、回路シミュレーション		
授業計画	<p>第1回 導入、概要 第2回 製図の基礎 第3～4回 図学、基本図形 第5～6回 投影図示法、第三角法 第7～8回 製作図の製図法 第9～10回 汎用CADの使用法 第11～12回 テクニカルイラストレーション 第13～14回 電気用図記号 第15～16回 電子回路図の作図法 第17～18回 電子回路図CADの使用法 システム概要、基本操作実習 第19～26回 電子回路図CAD演習 結線図とネットリスト、パーツライブラリ 第27～32回 プリントサーキットボード（PCB） デザイン実習、部品配置と配線 第33～36回 回路シミュレーション 第37～38回 基板加工の仕組み 第39～40回 まとめ</p>		
教科書、教材等	「最新電子製図」小池敏男ほか（実況出版）、関連プリント		
授業の形式	教科書に準じて講義を進めながら、プリント等によって関連分野の説明や実習、演習等を行う。		
成績評価の方法	授業への参加度（積極性）及び受講状況（演習レポート提出等）で評価する。		
履修の留意点	電気・電子回路、電子デバイス実験、ソフトウェア実習と関連づけて学習することが望ましい。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2042
科目名	シーケンス制御実習	科目種別	専門
科目名：英語	Sequence Control Practice	所属	電子技術科
担当教員名	藤井 裕康		
開講学期／単位数	IV期／4単位（40回）		
授業の到達目標	電化製品や自動販売機などに利用されているシーケンス制御について、その仕組みと構成要素を理解し、仕様に応じ基本的なシーケンス制御回路を設計・製作できる。		
授業の概要	リレーシーケンス制御について実物を教材として、各種基本回路の設計、製作ならびに動作確認を行う。 さらに、PLCの原理、機能やプログラムについて学習し、様々な実用制御回路の設計、製作ならびに動作確認を行う。		
キーワード	リレーシーケンス、シーケンス図、論理回路、自己保持回路、インタロック回路、タイマ回路、プログラマブルコントローラ		
授業計画	第1～2回 シーケンス制御の概要、制御方式 第3～4回 シーケンス図とタイムチャート 第5～6回 リレー・スイッチの原理と構造 第7～8回 実習装置の構造 第9～12回 ON回路、NOT回路 第13～16回 AND回路、OR回路 第17～20回 自己保持回路 第21～22回 インタロック回路 第23～24回 タイマ回路 第25～26回 ワンショット回路、フリッカ回路 第27～28回 配線用電線の製作 第29～30回 プログラマブルコントローラとラダー図 第31～32回 プログラムの基本命令と構成 第33～34回 命令と基本回路 第35～38回 プログラム演習 第39～40回 期末試験		
教科書、教材等	「やさしいリレーとプログラマブルコントローラ改訂2版」岡本裕生著（オーム社）、自作プリント等 シーケンス制御実習装置		
授業の形式	講義、設計、回路構成演習を繰り返しながら実学一体形式で行う。		
成績評価の方法	期末試験、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点	基本素子の機能を確実に習得し、設計及び回路構成のポイントを確実に習得すること。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2043
科目名	卒業研究 I	科目種別	専門 (必取得)
科目名 : 英語	Graduation Study I	所属	電子技術科
担当教員名	三浦 幸喜		
開講学期/単位数	Ⅲ期/2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	<p>卒業研究は、設計・製作・研究を通じて、実践力と問題解決能力を養うための教科である。</p> <p>卒業研究の目的を理解しつつテーマ選定を行う。</p> <p>1) 論理的思考能力を身につけることができる。</p> <p>2) ものづくりに関する企画立案能力を身につけることができる。</p> <p>3) テーマ発表を通し、プレゼンテーション能力を身につけることができる。</p>		
授業の概要	<p>卒業研究の進め方について講義を行った後、各自の卒業研究テーマについて、調査・検討を行う。</p> <p>卒業研究テーマとその内容について学生自身が選定し、企画書の提出とテーマ発表会を行う。</p>		
キーワード	ものづくり、企画立案、プレゼンテーション		
授業計画	<p>第 1 回 授業概要説明</p> <p>第 2 回 卒業研究の進め方、卒業研究の目的、スケジュール、テーマ選定、卒業研究の実施方法等について</p> <p>第 3 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 4 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 5 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 6 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 7 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 8 回 卒業研究テーマの選定状況の報告</p> <p>第 9 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 10 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 11 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 12 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 13 回 卒業研究テーマの選定作業</p> <p>第 14 回 卒業研究テーマの選定作業、企画書の作成</p> <p>第 15 回 卒業研究テーマの選定作業、企画書の作成</p> <p>第 16 回 卒業研究テーマの選定作業、企画書の作成</p> <p>第 17 回 卒業研究テーマ発表原稿作成、プレゼン資料作成</p> <p>第 18 回 卒業研究テーマ発表原稿作成、プレゼン資料作成</p> <p>第 19 回 卒業研究テーマ発表会</p> <p>第 20 回 授業総括</p>		
教科書、教材等	自作プリント他、各自選択あり。		
授業の形式	講義及び自主研究		
成績評価の方法	企画書及びテーマ発表を総合的に評価する。		
履修の留意点	自分で具体的かつ詳細な目標を設定し、自己管理を行うこと。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	2044
科目名	卒業研究Ⅱ	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Graduation Study II	所属	電子技術科
担当教員名	継枝 正行／有原 一文／三浦 幸喜／佐藤 聖一／泉田 福典／藤井 裕康		
開講学期／単位数	Ⅳ期／21 単位（210 回）		
授業の到達目標	<p>卒業研究は、ものづくりにおける企画から、設計・製作・評価に至る全工程を学ぶとともに、実践力と問題解決能力を養うための教科である。</p> <p>卒業研究の目的を理解しつつ自主的な研究・製作を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ものづくりについて企画・立案し、それを具現化する能力（設計・製作）を身につけることができる。 2) 製作物について評価し、問題点を抽出する能力を身につけることができる。 3) 不具合等の問題点を解決する能力を身につけることができる。 4) スケジュール管理能力を身につけることができる。 5) ホウレンソウ（報告・連絡・相談）を実践し、コミュニケーション能力を身につけることができる。 6) 成果報告発表を通し、プレゼンテーション能力を身につけることができる。 		
授業の概要	<p>担当教員の下、各テーマのスケジュールに沿って自主的に進める。必要な技術的知識や技能を学びながら、目標に到達するための課題・問題を解決し、スケジュールとコストに留意しながら進めていく。</p> <p>最後に卒業研究の成果として、卒業研究発表会、卒業研究論文の提出を行う。</p>		
キーワード	ものづくり、企画立案、設計、製作、評価、スケジュール管理、コミュニケーション、プレゼンテーション		
授業計画	<p>10月 テーマについて具体的な調査分析、計画表の作成、概要設計</p> <p>11月 基礎実験、実験・試作、詳細設計</p> <p>12月中旬 卒業研究中間発表</p> <p>12月～1月 製作作業、データのまとめ</p> <p>2月 予稿作成、卒業研究発表、産技短展準備</p> <p>3月 卒業研究論文の提出</p>		
教科書、教材等	自作プリント他、各自選択あり。		
授業の形式	ゼミおよび自主研究・製作		
成績評価の方法	卒業研究論文および卒業研究発表等により総合的に評価する。		
履修の留意点	自分で具体的かつ詳細な目標を設定し、自己管理を行うこと。		
参考・推薦図書等			

電子技術科履修科目関連図



※ 科目背景灰色は、必取得科目を示す。

岩手県立産業技術短期大学校 本校（矢巾キャンパス）
講義要目 = SYLLABUS =

令和7年3月発行

発行 岩手県立産業技術短期大学校
〒028-3615
岩手県紫波郡矢巾町大字南矢幅第10地割3番地1
TEL 019(697)9088(代表)
FAX 019(697)9089
